

地域連携が大学教育にもたらすもの

報 告 者

真鍋 和博（北九州市立大学地域創生学群 准教授）

住吉 廣行（松本大学 副学長）

齊山美津子（神戸女子大学文学部教育学科 教授）

コーディネーター

三浦 潔（京都文教大学人間学部現代社会学科 教授）

概 要

近年各地の大学が導入している「地域連携型教育」とは、キャンパス内の学習だけでは得られにくい類の能力をキャンパス外の実社会での様々な体験を通して、学生に身につけさせようという試みである。そういった「キャンパス内学習では得られにくい能力」は、従来、大学教育の主たる目標とは考えられていなかったものであり、その育成を主たる目的にするカリキュラムのひとつとして、地域社会と連携した教育プログラムを大学が導入するようになったと言えよう。ただ、これらの教育プログラムは様々な点で、従来の大学カリキュラムの枠組みに整合しにくい問題点を持つ；授業（実習）時間の不規則性、半年の学期で完結する科目との時間的不整合性、成績評価の方法など。

第3分科会では、地域社会との連携を活用した教育プログラムを実施している3大学にそれぞれの取組を紹介頂き、地域連携型教育の在り方について検討する機会を提供したい。

【第3分科会】

地域連携が大学教育にもたらすもの

参加者数 49名

分科会報告者

第1報告者 真鍋 和博（北九州市立大学地域創生学群 准教授）
第2報告者 住吉 廣行（松本大学 副学長）
第3報告者 齊山美津子（神戸女子大学文学部教育学科 教授）
コーディネーター 三浦 潔（京都文教大学人間学部現代社会学科 教授）

1. 概要

分科会のねらい：

近年各地の大学が導入している「地域連携型教育」とは、キャンパス内の学習だけでは得られにくい類の能力をキャンパス外の実社会での様々な体験を通して、学生に身につけさせようという試みである。そういった「キャンパス内学習では得られにくい能力」は、従来、大学教育の主たる目標とは考えられていなかったものであり、その育成を主たる目的にするカリキュラムのひとつとして、地域社会と連携した教育プログラムを大学が導入するようになったと言えよう。ただ、これらの教育プログラムは様々な点で、従来の大学カリキュラムの枠組みに整合しにくい問題点を持つ：授業（実習）時間の不規則性、半年の学期で完結する科目との時間的不整合性、成績評価の方法など。

この分科会では、地域社会との連携を活用した教育プログラムを実施している3大学からそれぞれの取組みの報告を聞き、地域連携教育の在り方についてフロア参加者をも交えた意見交換を展開する。

報告の概要：

最初にコーディネーターから分科会の趣旨と進め方についての説明があり、3名の報告者による発表が午前中に行われた。

1) 第1報告 真鍋 和博 氏

「地域創生学群の取組み

～指導的実習プログラムを中心として～

真鍋氏は、2009年4月北九州市立大学に開設された地域創生学群を中心となって運営する人物のひとりであ



る。この地域創生学群が持つ理念、目的、カリキュラム構成、および課題が報告された。

2) 第2報告 住吉 廣行 氏

「地域の“教育力”を活用した、動機付け教育・実践力育成教育～アウトキャンパス・スタディを通して「課題意識」「自信」を育む～」

松本大学は、2009年度、全国の私立大学の中で最も地域貢献度が高い大学と評価された（「日経グローバル」誌によるランキング）。住吉氏は、副学長として同大学の地域連携活動・教育を推進してきた人物である。同大学の地域連携型教育の概要と実績及び課題が報告された。

3) 第3報告 齊山 美津子 氏

「地域連携が大学教育にもたらすもの」

神戸女子大学は大学の地域貢献活動を推進するため、2006年と2008年に地元神戸市の須磨区と中央区とそれぞれ地域連携包括協定を結んだ。齊山氏はこの協定に基づ

いて同大学の地域連携（教育面と貢献面）を実施する立場にある人物である。同大学の地域連携活動の概要と実績及び課題が報告された。

報告に対する質疑及び全体討論の内容：

午前の部が終了した後、3名の報告者の発表に関する質問用紙をフロアから回収した。午後の部では、先ずそれぞれ質問用紙に記載された質問・意見について、3名の報告者から回答とコメントを述べてもらい、更にその回答・コメントに関連する意見や質問をフロアから受けて議論を展開した。いくつかの質問を挙げると次の通り：

1) 真鍋氏に対する質問

- ・地域創生学群の理念を地元地域の人々に理解してもらうために行っていることは何か？
- ・「地域創生力」の構成要素とその効果測定の方法
- ・「地域創生力」と学士力・教養教育との関係
- ・「ポートフォリオ」（その作成を通じた学生による勉学の自己管理）のフォーマットはどのようなものか？
→ 学習目標の設定、履修計画の作成（学期毎）、ゼミ教員によるアドバイス
- ・学生のモチベーションを維持する方法
- ・マナー・トレーニングのやり方
- ・一般入試での面接試験について、その評価ポイントはあるか？
- ・社会人学生は演習・実習にどのように関わらせているのか（一般学生とは異なると思うので）
- ・実習プログラムでの学生の活動を評価する基準は？

2) 住吉氏に対する質問

- ・個々の学生が担当する案件の決め方
- ・地域づくり考房「ゆめ」が設定された経緯

3) 齊山氏に対する質問

- ・通年で15回の学外活動をすれば「地域学習」の単位（2単位）が取得できるとあるが、履修登録している学生の途中経過をどのようにフォローしているのか。
- ・「地域学習」を履修する学生のうち、最終的に単位を取得できる学生の比率が少ないことについて

4) 全員に対する質問

- ・地元地域との関係構築と関係継続の方法
- ・地元地域との交渉窓口は誰か？
- ・地元地域から持ち込まれる案件に、教育目的以外のもの（バイト的な仕事）が紛れ込む懸念はないか？
- ・実習の事前指導と事後指導はどのように行っているのか？
- ・実習の評価基準について

- ・実習時間の確保の仕方
- ・実習科目の単位数と参加する学生の割合
- ・交通費や活動費に対する資金面の補助はあるのか？
- ・GPを取得している場合、GP期間が終了した後、活動資金の財源はどのように手当てするのか？
- ・複数の教員が関わっている実習科目の場合、個々の教員による実習成果のばらつきを防ぐために、教員に対する指導が必要ではないか？

午後の部では、質問用紙にあった質問や意見についての意見交換が活発に行われたため、時間的制約から、全体的なテーマについての討論は行わなかった。

2. 論考 （分科会の到達点と今後の課題について）

昨年度と今年度の2回、「地域連携型教育」をテーマとする分科会（昨年度はミニ・シンポジウム）のコーディネーターを担当してつくづく感じることは、「地域連携型教育」に定型フォーマットはないということである。個々の大学は、それぞれが持つ教育理念と教育目的、入学する学生のニーズ、地元地域社会の特徴とニーズを十分把握した上で、それらに合致した教育プログラムを、知恵を出し合って作り上げていかねばならない。全国一律の定型フォーマットが存在しえない所以である。

また、いくら高い理想を掲げても、それを実施できるキャパシティが、大学と地域社会と学生それぞれに備わっていなければ、そのプログラムは「絵に描いた餅」に終わってしまう。これら三者の能力を冷静に見極めた上で、それに合った教育プログラムを設計することが必要であることは論を俟たないだろう。

昨年度のミニ・シンポジウムと同様、今年度の分科会において報告を行った3名の方々は、それぞれが所属する大学において「地域連携型教育」に携わって来られた。それぞれの大学独自の「地域連携型教育」の推進役として、地元地域の人々との交渉、カリキュラムの構築と運用、学生の教育・指導など、様々な役割を果たしておられる。

地域連携型教育に重点を置いたカリキュラムを中心とする「地域創生学群」をグリーンフィールドから立ち上げ、第1期生を受け入れた段階にある北九州市立大学（真鍋先生）。

大学の地域貢献活動のひとつとして、「地域づくり考房『ゆめ』」を設置してそれを窓口にして学生の参画を推進

する松本大学（住吉先生）。

大学として、古くから地元地域社会での活動を行ってきた実績を踏まえて、地元自治体との地域連携包括協定を締結し、そのインフラに沿って学生の実習参加をバックアップしている神戸女子大学（齊山先生）。

地域連携型教育を始めるに至った経緯・背景は3大学まちまちであり、従って現在運営されているプログラム内容と体制は一様ではない。分科会参加者からの質問も、個々の報告者に向けられたものの多くが具体性を帯びていたのに対して、報告者全員に向けられた質問への回答がばらばらとの印象が強かったのも致し方ないことであった。「地域連携型教育」に定型フォーマットはないという思いを強く抱いた所以である。

今回の分科会で結論めいた締めくくりができなかったのは、コーディネーターの力不足が大きな理由ではあるが、そもそも結論をまとめることに馴染まない類のテー

マであるとも言い得る。

今や「地域連携型教育」の必要性を認識している大学関係者は多い。分科会参加者によるアンケートを見ると、今回の分科会で参考になる情報を多く得られたとの感想を持った参加者が多かったようだが、「地域連携型教育」に定型フォーマットがないとするならば、どのようにして自らの大学の「地域連携型教育」プログラムを構築していくべきだろうか。

それには、各地の大学が、それぞれの環境に合わせて構築し、運営している「地域連携型教育」のプログラムをこまめに調べて、自分の大学の環境に合う部分を取捨選択して取り入れていく作業が現実的な対応となるであろう。そういう認識に立てば、「地域連携型教育」というテーマが、このFDフォーラムで来年度以降も採り上げる意味は十分あると考える。



地域創生学群の取組み

～指導的実習プログラムを中心として～

北九州市立大学地域創生学群 准教授 真鍋 和博

地域創生学群の取組み ～指導的実習プログラムを中心として～

1. 地域創生学群の人材育成理念

地域創生学群は、現代社会の人材ニーズを鑑み、社会現場で即戦力となりうる能力・素養を兼ね備えた人材を育成することを理念に掲げている。

《理念》

- ① 幅広い教養と実践力を持った専門性を備え、地域に関する理論と現場理解により、地域社会をマネジメントし、地域の再生と創造に貢献できる人材の養成により、地域創生の中心的役割を担う。
- ② 社会人教育と生涯教育を重視し、地域の多様な学習ニーズに応える。
- ③ 高校での部活動やボランティア活動に配慮した入試制度や入学前教育の導入により高校との接続を図るとともに、本学大学院との接続を強化し、長期的展望に立った地域の人材の養成を担う。
- ④ 既存の学部組織では学べないような、地域に関連する複数の学問分野を総合的に学習し、総合力・実践力を重視したカリキュラムを特色とする。

《目的》

幅広い教養と実践力を持った専門性を備え、現場の実情を含めた地域に関する総合的な理解を基盤とする、以下のような人材を養成する。

- ① 実践力を伴う専門性をもって、企業・NPO・NGO・行政組織などでリーダー的役割を担う人材
- ② 情報処理能力をもって、企業・NPO・NGO・行政組織などで活躍する人材
- ③ 地域福祉の抱える問題を総合的に把握・理解し、実践力をもった専門性を修得した上で、地域福祉の現場でコーディネーター的役割を担う人材
- ④ ボランティアとしての専門性を身に付け、自らの才能や技能を発揮して、生涯にわたり地域ボランティアとして活躍できる人材
- ⑤ 豊かで潤いのある人生の実現、生涯を通じた人間形成を通じて、人的財産として地域文化の発展に貢献できる人材

以上のような理念や目的に沿って、長期的展望にたった地域人材の養成を目指している。地域創生においては、地域の抱える様々な問題に大学入学以前から関心を寄せ、その地で生活するコミュニティ・メンバーとしての自覚を持ちながら、長期的に活躍できる人材が必要不可欠となる。地域創生学群は、こうした人材の養成をも一つの大きな目的とするも

のである。学力のみによらない入試方法や入学前での事前教育の導入を図り、高等学校・大学・大学院の一貫した教育システムの中で地域創生に貢献できる人材を養成することを一つの特色としている。

また、多様な分野で才能を生かし活躍できる地域人材の養成を目指している。地域創生においては、いわゆるフォーマルセクターの人材養成のみならず、多様な分野において、ボランティアとして生涯にわたり活躍できる人材の養成は急務の課題といえる。地域創生学群は、こうした課題に取り組み、様々な才能や技能を持った人材を発掘するとともに、幅広い教養と地域理解に基づく実践力を身に付け、自らの才能等を生かして地域に貢献していく人材の養成をも目的とするものである。

2. 座学と実習の融合

地域社会で活躍できる人材としての能力・素養を身につけさせるためには、机上の学問を習得することに留まらず、フィールドワークや実習などを通じた実践的なカリキュラムの構築が必要である。実習を通じて得られた知見を、同時並行的に学習し、知識や理論と有機的に結合し、新たな課題を設定し課題探求能力を養う場として演習をおく。このフィードバック方式による教育によって、真に実践力を持って地域創生に貢献できる人材を養成する。また、指導体制として、実習、演習とも学群専任教員が担当し、責任ある指導体制を確保する。また、実習先とのきめ細かい連絡・調整や安全性の確保等に配慮するため、実習補助教員を配置するなど、専任教員の指導を支える体制を整備する。さらに、実習プログラムの教育的効果を担保するために、実習専任教員を配置し、PBLを軸とした教育プログラム構築を行っている。

3. 指導的実習プログラム

地域創生学群では1年次に『指導的実習プログラム』を実施している。地域創生学群の教育目標を実現する上では非常に重要な位置づけであるが、以下にその概要を記す。

○指導的実習プログラムの意味

地域創生学群では2年次から正課での実習が組まれている。社会現場で実習を行うということは、教育を受ける学生という受け身な立場にとどまらず、サービスを提供する主体者としての責任が発生する。つまり、ミスをしたり、誰かに迷惑をかける行動をとってしまうと、その責任を負わなければならないということである。指導的実習プログラムとは、学生が社会現場で実習を確実に実施し、成果を上げ、地域社会から認められる存在になるために必要な素養、態度、マナー、知識等を身につけてもらうために実施している。

○ねらい

指導的実習プログラムのねらいは以下の4点である。1. 社会現場で必要なマナーや実習を行う上での態度を体得する。2. 社会を見る際の多様な視点を確保する。3. 現場で起こっていることを理解する。4. 自分ができるところとできないことを理解する

○教育上の位置づけ

指導的実習プログラムは実習の予習的位置づけとして、地域創生学群が提供する教育プログラムとしている。単位は付与しないが、基本的に地域創生演習と抱き合わせのプログラムであると考え、必修科目に準じる扱いとなっている。

4. 指導的実習プログラムのメニュー（2009年度）

今年度スタートした指導的実習プログラムであるが、地域の方々の様々な協力を得て、多様な分野にわたるプロジェクトを実施している。学生一人あたり4テーマ程度のプロジェクトに関わることになる。

○FMKITAQ番組制作実習／毎週火曜20:00～。地元コミュニティFM局の番組の企画、取材、放送の一連の活動をチームで行う。

○オープンキャンパス・大学PR実習／高校教員や高校生に地域創生学群をPRする。発表内容のまとめから、パワーポイント作成、プレゼンテーションを徹底的に訓練する。

○高大連携プログラム実習／地元高校との高大連携プログラムを学生がサポートする。

○学童保育実習／夏休みの学童保育でのサポート。学生が子どもたちとの遊びのプランを立て、予行練習を重ねながら本番に備える。

○自閉症児療育キャンプ実習／自閉症児を対象とした1泊2日のキャンプを学生が企画運営する。障がいに対する知識や、現場での配慮など事前学習も充実させている。

○地域企業レポート実習／地域企業を取材し、内容をまとめてFMラジオ番組で放送する。企業広報としての側面が重要で、放送シナリオをしっかりと作成し、放送練習を重ねる。

○サイクルシティプロジェクト実習／市内最大級の自転車ツアーイベント『サイクルツアー北九州』の企画運営を始めとして、自転車を通じた環境保護啓蒙活動を行う。

○合馬まちづくりプロジェクト実習／たけのこの産地である合馬地区において、まちづくりのサポートを実施。農産物直売所のお手伝いから、休耕田開拓や竹林の整備等を検討中。

○門司あきない再生プロジェクト実習／門司港地区の商店街をフィールドにした活性化プロジェクト。商店街への人の流れをどのようにして作るのかが大きな課題。

○小倉商店街プロジェクト実習／JR小倉駅前の商店街をキャンパスに様々な実習を展開。第1弾として、商店街一帯の店舗調査を行い、業種分類や空き店舗の確認を行った。

○子どもボランティア実習／北九州YMCA主催「野外活動クラブ」に参加し、主として小学生の子どもたちのキャンプや野外活動を企画し、実施する。

○車椅子バスケットボール大会実習／大会の補助と模擬店の運営を行う。

○スクールボランティア実習／北九州市教育委員会との包括提携事業。市内小中学校の普通学級、特別支援学級や、特別支援学校で授業等のサポートを週1回行う。約30名が約20校で学ばせていただいている。

5. まとめと今後の展開

地域創生学群の取り組みは、21世紀型大学教育の模索であるといえる。それは、理論と実践の融合という言葉で言い表されるかもしれない。伝統的に大学は理論としての学問を追及する研究機関として君臨してきた。最近になってようやく教育機関としての位置づけがなされるようになったものの、社会で活躍できる人材を教育・輩出するために、大学がどれだけ貢献できているか不明な部分もあるだろう。

地域創生学群の取り組みを全学的に波及させていくために、『地域共生教育センター設置準備室』が2009年11月に立ち上がり、翌年4月からの開設を目指して現在準備中である。このセンターが地域実践型教育を全学展開していく際の重要な拠点となるであろう。

フォーラム当日は、これまで取り組んできた内容・成果についてご報告させていただく。

北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

第15回FDフォーラム

地域創生学群の地域協働型実習

～指導的実習プログラムを中心に～

2010年3月7日(日)
北九州市立大学
地域創生学群
真鍋和博

自己紹介

- ・1992年 株式会社リクルート入社
人材、学び、キャリア事業
- ・2006年 北九州市立大学 キャリアセンター
- ・2009年 同 地域創生学群

《現在の主な業務》
実習コーディネートと学生への指導・助言／G
P事業推進／教養科目の授業／大学教育開
発支援室／キャリア・就職支援／大学広報
等々…

気づき

- ・学生の成長は右肩上がりではなく、あるきっかけによる段階的な急成長をするようだ
- ・階段を上るには、「生の教材」「コミットメント体験」「壁(目標)」「チーム」「メンター」が重要だと体験する
- ・地域貢献を絡めて、現場で学生との接点を持つてやってみたいという気持ちが大きくなる
- ・キャリアセンターでの事業の軸足を「プロジェクト型実習」>「就職活動支援」

地域創生学群の人材育成

- ① 実践力を伴う専門性をもって、企業・NPO・NGO・行政組織などでリーダー的役割を担う人材
- ② 情報処理能力をもって、企業・NPO・NGO・行政組織などで活躍する人材
- ③ 地域福祉の抱える問題を総合的に把握・理解し、実践力と専門性を修得した上で、現場でコーディネーター的役割を担う人材
- ④ ボランティアとしての専門性を持ち、自らの才能や技能を発揮して、生涯にわたり地域ボランティアとして活躍できる人材
- ⑤ 豊かで潤いのある人生の実現、生涯を通じた人間形成を通じて、人的財産として地域文化の発展に貢献できる人材

地域創生学群の概要

学部名称：地域創生学群

修業年限：4年 ※最長6年の長期履修制度有

学位：学士(地域創生学)

キャンパス：北方キャンパス

授業時間：月～土、1～7限(9:00-21:10)

設置時期：平成21年4月

定員：90名(AO/社会人特別/一般)

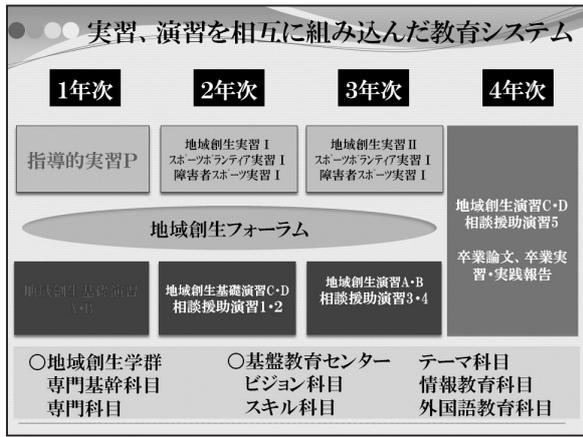
3つのコース

地域マネジメントコース	地域福祉コース	地域ボランティア養成コース
地域をマネジメントする力と社会で即戦力となる経済・法律の知識を備え、地域の活性化に活躍する人材を育成	住民が支え合い豊かに暮らす地域福祉の理論を会得し、福祉の現場をコーディネートできる人材を育成	社会貢献やスポーツ・福祉等のボランティアの意義・実践に精通し、社会を支える仕事でリーダーとなる人材を育成
【主な専門分野】 経済・経営 法律・政策 情報	【主な専門分野】 福祉 心理・メンタル 社会	【主な専門分野】 ボランティア 福祉 スポーツ・健康



● ● ● レベル設定

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
受動行動	通常行動	能動行動	創造行動	パラダイム転換行動
部分的・断片的行動	やるべきことをやるべき時にやった行動	明確な意図や判断に基づく行動、明確な理由のもとに選択した行動	独自の効果的工夫を加えた行動、独創的行動、状況を変化させようと、打破しようという行動	まったく新たな、周囲にとっても意味ある状況を作り出す行動
目先のことだけにする。好きなことだけする。できるだけ責任は持ちたくない。	やりたくないことでも、誰かと約束したことはやる。最低限の役割は責任を持つ。	自分の意思で行動を開始し、最後まで遂行する。	学んだことに自ら工夫を加えて行動する。	周囲を巻き込んで行動する。周囲に好影響を与える。



- ● ● 地域創生基礎演習A
- ・全ゼミ合同
 - ・オムニバス講義となっているが、サポート教員が出席し、遅刻や授業態度をチェック
 - ・1限目だが、5分の遅刻で30分の「説教」
 - ・居眠りシール
 - ・マナー、言葉づかい、ネチケット、プロ意識、議論の方法、文章の書き方等の指導を徹底

- ● ● 指導的実習プログラムの特徴
- ・実施のねらいは「マナーや実習態度の体得」「社会を見る際の多様な視点」「現場意識」「自己理解」に加えて「協働の難しさを知る」
 - ・実習見習いのため、単位は付与されない
 - ・教員の関与が比較的強い
 - ・ゼミ単位型やコース型、オープン型が混在
 - ・「本番」機会の提供
 - ・リフレクションの機会を持つ

- ● ● 指導的実習プログラム[前期]
- ・OC・大学PR実習／高校生や高校教員に対して地域創生学群をPR。準備とプレゼンテーション
 - ・高大連携プログラム実習／地元高校SSHプログラムを学生がサポート。FM番組制作実習を応用
 - ・自閉症児療育キャンプ実習／自閉症児を対象とした1泊2日のキャンプを学生が企画運営
 - ・学童保育実習／夏休みの学童保育のプログラム立案と実施。10日間のべ40名程度が参加

● ● 指導的実習プログラム[後期]

- cross fm番組制作実習/地域企業を取材・放送。企業広報のためシナリオ構築、放送練習
- サイクルツアー実習/自転車観光レースの企画運営。関連したまちづくりの企画立案、実施
- 合馬まちづくり実習/合馬地区におけるまちづくり。就農サポート、竹林保全、地産地消
- 門司あきないDE塾実習/門司港商店街での活性化イベントを企画実施。地域社会人との交流
- 小倉商店街実習/小倉周辺の商店街をキャンパスにフィールドワークと様々な実習を展開予定
- 子どもボランティア実習/北九州YMCA主催「野外活動クラブ」。キャンプ等にリーダーとして参加

● ● 指導的実習プログラム[後期・通年]

- スクールボランティア実習/北九州市教育委員会との包括提携事業。特別支援学校・学級を含む市内小中学校で先生のアシスタントや授業のサポートを担当
- シニア体力アップ事業実習/NPO法人のシニア向け事業に学生が参加。体力測定やシニアスポーツをサポート
- 車椅子バスケットボール大会実習/大会の補助と模擬店の運営を予定
- FMKITAQ番組制作実習/コミュニティFM番組企画・取材・放送。地域資源の発見と北九州のことを好きになる効果

● ● 4年間の地域実習のイメージ

年次	タスク
1年次後期	上級生を手伝いながら実習を体験し、地域の方々との関係構築を行う期間
2年次前期	フィールドの中で、卒業研究・論文のテーマを模索する期間
2年次後期	自ら決めたテーマに沿った活動を開始する期間(関係構築中心)
3年次前期	自ら決めたテーマに沿った活動をする時期
3年次後期	自ら決めたテーマに沿った活動をする時期
4年次前期	成果をまとめていく期間
4年次後期	成果を発表する期間

● ● 教育効果を高めるために

- できるだけメンバーが固定しないチームを組織し、あえて「ホウレンソウ」が重要な状況をつくる
- 具体的な経験⇒内省的な観察⇒抽象的な概念化⇒積極的な実験 [Kolb学習モデル(松尾,2006)]
- 外部実習中は、大学教員は口出ししない。地域の方々に教育的配慮をしていただくようお願い
- 答えを教えることもあるが、できるだけ自分たちで試行錯誤させるように見守る
- 実習を専門に担当する教員の配置
- 資料室での学生との日常的な接点

● ● ポートフォリオによるセルフマネジメント

学生の活動

教員との面談 →地域創生力レベルチェック →地域創生力向上目標設定 →活動計画策定	地域創生力向上活動 →演習・実習 →ボランティア活動 →インターンシップ	評価・被評価 →レベルチェック →自己評価	教員との面談 →年間振り返り →地域創生力向上確認 →次年度プレビュー
--	---	-----------------------------	--

Plan → Do → Check → Action

地域創生力レベル別行動例 活動1ピクシート 地域創生力レベルチェックシート 振り返りシート

地域創生力表示シラバス 評価シート

地域創生力向上活動一覧 目標設定シート

KSP (kitakyu Sosei Portforio)によるマネジメント

年間サイクル × 4年間

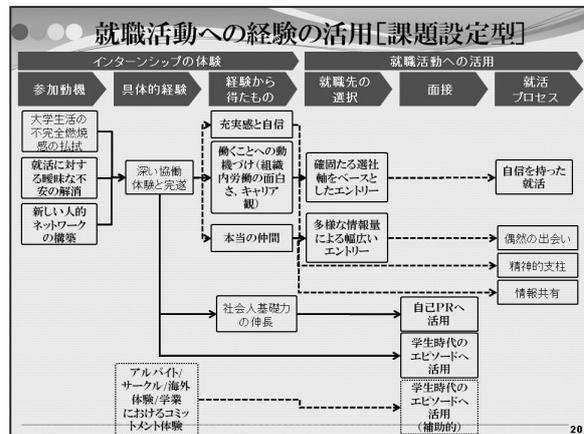
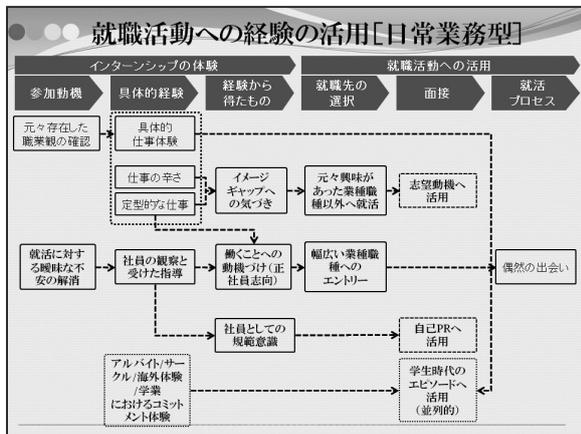
● ● 社会人基礎力の向上[キャリアセンター]

日常業務型インターンシップ

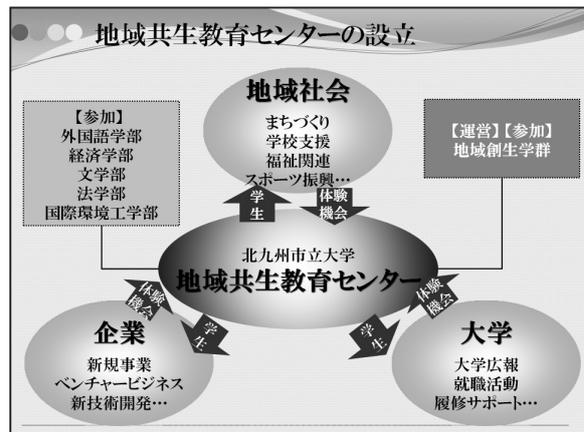
課題設定型インターンシップ

業種別	新に採り出す力				基盤基力				チーム行動力			
	主体性	柔軟性	実行力	課題発見力	計画力	創造力	知覚力	傾聴力	柔軟性	傾聴力	実行力	外見・話し方
事前	4.9	5.0	6.0	4.5	5.1	3.8	4.1	5.1	5.0	5.7	5.4	4.6
事後	5.7	5.7	6.9	5.9	6.0	4.4	4.2	6.1	5.9	6.5	6.0	5.4
日常業務型 成長値	0.86	0.63	0.63	0.86	0.90	-0.26	-0.08	1.02	0.82	0.87	0.56	0.84
標準	-0.473	-0.642	-0.358	-0.346	-0.285	-0.682	-0.481	-0.548	-0.380	-0.183	-0.202	-0.554
標準偏差	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**
事前	4.7	5.1	5.7	4.7	5.2	4.2	4.3	5.2	5.3	5.7	5.5	5.2
事後	5.7	5.8	6.4	6.0	5.8	4.6	5.2	5.6	5.8	6.2	5.7	5.8
課題設定型 成長値	1.07	0.68	0.73	1.32	0.61	0.30	1.34	0.42	0.52	0.52	0.34	0.61
標準	-0.240	-1.800	-2.220	-1.124	-1.781	-1.032	-2.524	-1.315	-1.420	-1.420	-0.920	-1.406
標準偏差	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**	0.0024**
標準値	-0.06	0.05	0.10	0.46	-0.29	-0.36	0.82	-0.36	-0.25	-0.34	-0.22	-0.22

* < 0.05, ** < 0.01, *** < 0.001



- ### エンrollment
- 【AO選抜】**
 - 入学希望理由書
 - 課題論文
 - 面接(グループディスカッション)
 - 【一般選抜】**
 - 活動・資格等実績申告書、志望理由書
 - センター2科目(国語+1)
 - 小論文
 - 面接(ソーシャルスキルトレーニング)



ご静聴ありがとうございました。

manabe@kitakyu-u.ac.jp

地域の“教育力”を活用した動機付け教育・実践力育成教育 ～アウトキャンパス・スタディを通して「課題意識」「自信」を育む～

松本大学 副学長 住吉 廣行

2010.3.7 共：同志社大学・新町キャンパス

大学コンソーシアム京都 第15回F・Dフォーラム
総合テーマ「学生の学びを支える～つなぐF・Dの展開～」

第3分科会テーマ
「地域連携が大学教育にもたらすもの」

地域の”教育力”を活用した、
動機付け教育・実践力育成教育
～アウトキャンパス・スタディを通して「課題意識」「自信」を育む～

報告者：松本大学／松本大学松商短期大学部
副学長・住吉広行

MATSUMOTO UNIVERSITY

構成

1. 地域貢献度 全国私立大学No.1 実績の背景
アニュアルレポートの紹介と地域総合研究センター
2. 学生の状況と帰納的教育手法
課題意識と自信を育む
3. 松本大学における「学生の地域連携活動」の
諸形態と教育的意義
地域づくり考房「ゆめ」、学友会活動、ゼミナール
アウトキャンパス・スタディ
4. おわりに
負荷を掛けるから学生は育つ 一大学の姿勢と学生の役割

MATSUMOTO UNIVERSITY

1. 地域貢献度全国私立大学No.1の実績の背景 ～地域の“幸せづくり”の人づくり大学～

評価の視点

①大学の組織・制度(部署、費用、サテライト、ベンチャー、研究費)	10/17
②学生関連(地元就職、インターシップ、派遣教、ボランティアセター)	12/17
③企業・団体・行政関連(共同・受託、協定、政策提言、商品開発、販売、人事交流、人事受け入れ)	24/26
④住民・団体(事業開催、施設開放、国際交流)	35/40

地域総合研究センター

大学・教職員の窓口

地域社会のニーズ

行政・企業・NPO

地域づくり考房「ゆめ」

学生の窓口

点検・評価＝アニュアル・レポート(研究・教育・地域貢献・大学運営)の作成

MATSUMOTO UNIVERSITY

アニュアル・レポートに見る、 教員の地域貢献活動

(論文・著作など研究活動が背景) (教育力と組織の対応が背景)

教員の専門知識
力量の活用

- 講演、パネラー、実演
- 審議会委員 (対行政・団体)
- 共同、受託研究 (対企業等)
- マスコミ対応 (出演・投稿等)

地域社会の
ニーズ
要望・要請

大学施設
総合力の活用

- 共同事業
- 共同企画の開催
- 生涯学習対応 (公開講座等)
- 学生の地域貢献 (ボランティア等)
- 大学広報・活動紹介

この辺から始まる地域とのコネクション→地域貢献→連携教育への基盤づくり

MATSUMOTO UNIVERSITY

2. 学生の状況と帰納的教育手法

学生の状況分析

- 動機付けの必要性
- 受け身からの脱却
- 社会状況との関連

F・D・S・Dの
必要性

- 現代の学生に合った教育手法の開拓
- 職員の学生対応法
- 教職員の意識改革

目指すべき
方向性

- 自信の獲得と能動性
- 学ぶ姿勢の獲得
- 社会性・市民道徳

MATSUMOTO UNIVERSITY

状況分析

目につく社会現象	若者に与えた影響	松本大学松商短期大学部が実施している取組
<p>経済</p> <ul style="list-style-type: none"> 有り余る商品 (消費旺盛社会) 国際競争経済で安価な製品 インターネット 携帯電話 ゲームへの没頭 言語文化衰微 いじめ 	<ul style="list-style-type: none"> 大量消費の生活 働く意欲の喪失 フリーター コミュニケーションの機会不足 バーチャルな世界 想像力不足 能率の理解不足 少年犯罪 ひとりより 市民意識の欠如 放任主義 偏極化 甘え・身勝手 ボランティア精神の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> 11 キャリア教育の展開 (入学前教育の充実/学ぶ意欲の形成/生きる力) 12 就職相談体制の充実 (働く意欲の形成と就職活動支援) 13 学友会における価値観の展開 (活動方針案/卒業生/学生会/選挙) 常任委員会、代議員会、事務局、体育局、報道局、渉外局、サテライト 14 相互志願・評価と学生間交流 (リマーズキャンパス/松本ほんぼん/就職会) 15 健康安全センター (学生相談室+保健室/ここからの健康) 16 ゼミナール担任制度 (学生約18名/教員) 17 大学生協学生委員会と他校 (組合員による経営方式) 18 社会的活動のカリキュラム化 (社会活動1～IV)
<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きすぎ(男) 女性の就業 少子化・過保護 環境問題の深刻化 大卒失業者 	<ul style="list-style-type: none"> 本物志向の芽生え 論議構成力不足 考える学びの喪失 進路が定まらない 基礎学力の低下 おろこばれ 	<ul style="list-style-type: none"> 19 地域連携による生きた学びの推進 (アウトキャンパス・スタディ/サボタ教育) 20 地域づくり考房「ゆめ」と通信レターの発行 (自主的社会的活動支援) 21 基礎教育センターの充実と基礎教育科目のカリキュラム化(社会教育1～IV) 22 教職委員会、は学生委員会、はキャリアセンター担当
<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識覚え込み型 受験競争体制 表裏上の学び 進路方式疎離 できないことも個性という考え 		

第3分科会

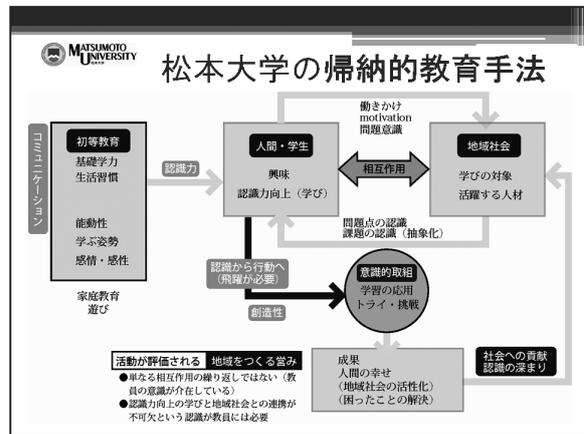
目指すべき方向性

活字離れ（書物、新聞を読まない）
課題意識が持てない
何故学ぶのか分からない

自ら学ぶ姿勢が出てこない

資格取得と職業が結びついている場合でも
専門化、峭壺化、試験合格目的で、幅広い
視野不足

「実社会の問題」と「自らの生き方」をいかに
関係付けるか。
(地域社会と連携した教育の必要性)

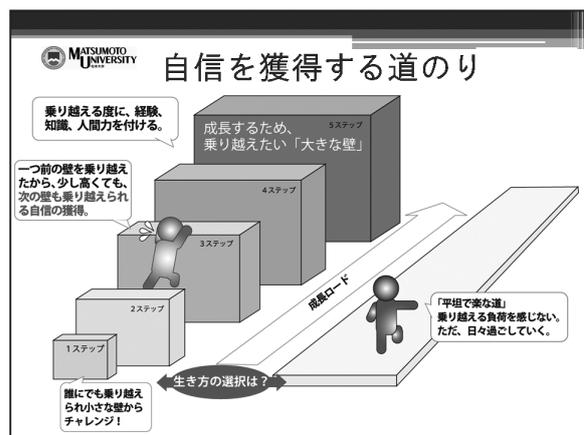


帰納的教育手法が成り立つ条件

教員の地域貢献活動を通して、地域とのつながり
をつくっていることが基盤にある。

地域社会の中に学生を受け入れるキャパシティと
それを育てる能力があることが前提。

地域社会による評価、自信の獲得 マスコミ等の
果たす役割。



自信の獲得

努力の積み重ねで得る成功

最初からできたわけではない。少しずつ、乗り越えた壁の数だけ、成長し、成功に導くことを学んだ。

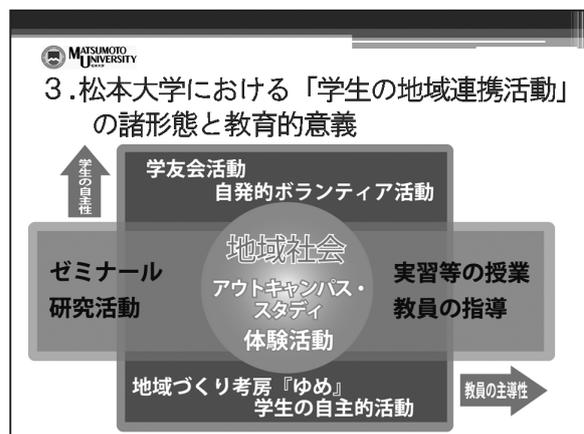
更なるステージへの欲求
知識
経験
失敗と負けない心
努力

一歩ずつ、積み重ねた結果=成功への道

1. 努力の仕方
2. 失敗と挫けない精神力の育成
3. 成長したい欲求

壁を乗り越える努力をしなかった人たち

あの人はずいぶんあ。自分とは違うんだ・・・



事例1 学生の自主企画

地産地消を目指し、地域の食材を活かすプロジェクトに挑戦

二つのプロジェクトが生んだ、商品開発の実践と企業との連携

- 「松本一本ねぎ」プロジェクト
 
- Cup Don プロジェクト
 

地元食材をPRする活動の中で、Cup Donの開発を進めた。サークルKが自社コンビニでの販売を希望し、本学とサークルKとの共同開発が実現。

第1段 07年12月
単価250円
総販売数7767個

2007年7月から今日まで
各種メディアでの取り上げ
新聞 7誌 21回
テレビ 地方局全5局
(NHKによる特集番組)
雑誌 4誌
- 「むかごちゃん」プロジェクト
 

事例2 地域で企画される事業への参加

地域からの要請に応える＝地域で何が行われ、何が困っているか？

- ペロタクシー
 

自転車タクシーを運行。「環境にやさしい」「地元の足、観光客の足として」観光振興と社会貢献活動に参画。
- 人にやさしい街づくり推進(希望の旅)
 

山形村社会福祉協議会と連携し、障害者の方との旅行によって、ユニバーサルデザイン環境の調査を実施。

事例3 地域とのパートナーシップ

地域の一員として自覚と責任を持って参加

- 松本大学キッズサッカースポーツスクール
 

地域のこどもたちに「サッカー」を通して、運動の楽しさ、友達づくりを教える目的で開催。参加者(保護者)から定期開催を求められ、地元のスポーツスクールとして人気を集める。
- 古い電車で新しい暮らし
 

松本電鉄新村駅や使用済電車を活かして、地域づくりを行う。松本電鉄上高地線の活性化などを行う。

事例4 地域づくり考房『ゆめ』を市街地に

「ゆめ」分室を設置 → 地域活動の質の変化

郊外: 住民、公民館、農家、松本大学「ゆめ」本部

松本市街地: 市役所、公的セクター、商店、住民、商工会議所

●大学キャンパスと市街地を結ぶ強い場を設置
市街地に、起点となる分室を置くことで、より地域の声を収集しやすく誰でも気軽にいれる場を設置。これにより、大学へ足を運ぶ地域住民も増えた。

4.おわりに

負荷を掛けるから、学生は育つ
—大学の姿勢と学生の役割—

学生支援の在り方 これまでとこれから

これまでの、一方方向の学生支援

これからの、双方方向の学生支援

図7. 新しい取組に求められる姿勢の転換

松本大学の学生支援体制

学生間の交流 情報発信・交換

学生スタッフ (ピアサポート) 就業体験

教員・職員との交流 職場体験

外部との交流 学生間交流 他大学交流 武者修行

キャリア系ガイダンス (学生プレゼンテーション) 情報センター

ゴミリサイクル推進プロジェクト (ボランティアスタッフ) 環境委員会

地域環境への貢献 責任・交流・学び

自立・責任感 達成感

マツナシ活動 (キャンパス見学会) (施設案内ガイド) 高校生との交流 高等学生数との交流 学外のお客様のご案内 地域の方との交流

入課広報室

人的支援 財政的支援

学生生活 活潑な学生生活

学生支援のための土台 (学生スタッフの基盤を確立)

教職員とのFD・SD活動/教員・職員の連携と風通しの良い情報交換

学生カレッジバンクの活用

会議・合宿 研修会などへの積極的参加

まとめ ～学生の成長、FD、SD活動、地域連携

- 地域連携の教育的位置づけ・意義を明確に
- 負荷を掛けるから学生は育つ
—大学の姿勢と学生の役割— (短大部'08年度GP)
- 負荷にも種類
学び (短大部&大学の'09年度GP)
自主的活動 (大学'08年度GP)
- 地域連携の効用：異質、異世代、
異文化との交流、コミュニケーション能力など
- 前提条件：学生を受け入れる (=共に育てる意志を持つ)
確固とした地域組織の存在

ご静聴ありがとうございました。



松本市上高地

学生の学びを支える

—つなぐFDの展開—

神戸女子大学文学部教育学科 教授 齊山美津子

文部科学省は平成 18 年 12 月、教育基本法の改正により「教育」「研究」に加え「社会貢献」を大学の役割・使命として位置づけました。大学が担う地域貢献のフィールドは幅広く、地域貢献事業・産学連携事業・共同受託研究・公開講座・住民、企業などへの付帯施設開放・地元就職活動・インターンシップ派遣・ボランティア・協定締結・人事交流・留学生の協力による地域国際交流活動など様々です。本大学の教育学科（昭和 44 年度設置）では、すでに昭和 47 年には地域活動が始まっていました。例えば、幼児運動研究会（現ゴーゴーキッカーズ・キッズリーダー部）は、社団法人神戸フットボールクラブの幼児組の指導員としてボランティア活動をしており、今日まで 36 年間続いています。また、西宮市のボーイスカウト女性リーダーとしても平成元年から長年ボランティア活動をさせていただき、カブスカウトと一緒に、土曜日や日曜日の終日、山登りや物づくり、募金活動、清掃活動などを行ってきました。これらの地道で継続的な活動が土台となり、ここ 10 年間はさらに地域貢献の取り組みが盛んになっています。2006 年には神戸市須磨区との地域連携包括協定、須磨離宮公園とのキャンパスパーク連携協定、2008 年には中央区との地域連携包括協定が結ばれました。諸活動の運営をスムーズに行うために「組織・制度」を整え、活動の充実を図っています。学生がまず地域社会に関り、実際に体験することを通して、地域社会に役立つ喜びを知り、問題解決能力を養い、何が貢献できるのか、何が求められているのかなど地域社会の重要性を知ることで社会人としての認識や意識が高められています。

1 委員会の設立

大学改革の柱の一つである「地域が求める大学」の具体的な取り組みとして、平成 18 年 3 月 7 日、本学と神戸市須磨区との間で「地域連携包括協定」が結ばれたのを契機に、18 年度から連携事業を通して、本学の知的資源と学生の感性や創造性などを活かし地域活性化に貢献する体制づくりを行うことになりました。

初年度（平成 18 年度）は学内の教職員と学生からなる「連携推進委員」と教員数人の「実行委員」を設け、連携事業の是非や実行プラン等の検討を行いました。19 年度からは「地域連携推進委員会」として一つの委員会にまとめられ、教職員・学生・学友会の構成員で運営されることとなりました。

2 地域連携包括協定

1) 神戸市須磨区・中央区との地域連携

この協定は、学校法人行吉学園・神戸女子大学と須磨区・中央区が包括的な連携のもと、それぞれの持つ人材や知識、情報などの資源を活用して相互に協力することにより、人材の育成と地域活性化に寄与することを目的としています。

A 協力事項

- ①まちづくりの推進
- ②教育・文化・健康・スポーツの振興および発展
- ③地域福祉の向上
- ④人材の育成
- ⑤地域の安全・安心の推進
- ⑥その他両者が協議して必要と認める分野

B 地域連携の進め方（須磨区）

- ①双方に地域連携に関する窓口を設け、その窓口を通して相互に情報交換及び調整を行い、連携事業を推進する
- ②大学は須磨区との連携・協力を希望する研究・活動等の情報を積極的に大学に提供し、大学は、その施策推進に支障のない限り、連携事業及び区内の他の行政機関や団体との調整を行う
- ③大学は須磨区内の他の行政機関や地域団体との接点になるとともに、地域活性化につながる市民活動等の情報を積極的に地域に提供し、大学は学内運営に支障のない限り、連携事業を行う
- ④大学は、須磨区の目的が、須磨区の地域活性化にあることに鑑み、その目的に沿って活動する須磨区内の他の行政機関や地域団体に対しても、須磨区と同様の条件で連携事業を行う
- ⑤須磨区は、大学の目的が知的資源の地域社会への還元であるとともに、学生の社会性の涵養にあることに鑑み、学生の地域連携に関しては教育的配慮及び安全への配慮を行う
- ⑥大学及び須磨区は、その施策として連携事業を行う場合は、相手方がかかわって発生する費用を負担する。また、連携事業において、大学および須磨区が事故・過失等により相手方に損害を与えた場合は、これを補償する
- ⑦その他、この細目に定めないことで、連携事業に問題が生じた場合は、両者で協議し、誠意をもって解決に当たる

2) 須磨離宮公園とのC P連携

「C P」は、大学の「Campus」と公園の「Park」のそれぞれの頭文字によるものです。C Pは双方が相互に施設を開放して利用しあうもので、こうした大学と公園の連携は全国でも初めてです。本学と須磨離宮公園とは隣接しており、本学が1966年に開放し公園が1967年に相次いで開園をしました。これまでも親密な関係にありましたが、双方が開校、開園から40年を数えるのを機会に連携の話が進められました。

A 連携の実施例

- ①施設の利用
- ②共同研究
- ③イベントの共同開催

- ④離宮メイト・コベリーヌ（神戸女子大生）によるイベントボランティア
- ⑤授業等での園の活用
- ⑥園職員の講演会
- ⑦文化芸術による創造のまち
- ⑧広報活動
- ⑨神戸まつり「須磨音楽の森」スタッフとして活動

3 「地域学習」

連携事業を具現化するために、本学と須磨区の間に関地域連携に関する窓口を設置し、情報交換によって連携を進めることとなりました。こうした連携の体制が整備されるのに合わせて、学生の教育課程、教育方法に「地域学習」という新しい概念の実践的学習科目を創設し、教育プログラムを立ち上げました。

1) 目標

地域社会のフィールドで行う体験学習で、学生の自主性・自発性を基調とするものです。学生は、地域社会の環境・歴史・文化・暮らしや活動を知ることによって、地域社会の重要性、現代社会の役割の見直しの重要性を認識します。そして、地域社会に生きることの喜びや楽しさを実感し、ボランティア活動から社会奉仕の精神を知り、生涯学習に取り組むための基盤となる自己発見・自己啓発にも繋げていきます。このことによって、地域社会能力の向上はもちろん、やさしさ、思いやり、しなやかな感性、行動力、信頼される大人への成長を期待するものです。

2) ねらい

地域学習は、学生たちが連携事業などに関わることによって、地域社会の諸活動や社会の仕組み等を実際に体験し学習するものです。

- ①現在、地域社会に求められているものは何かを知り、自分たちで貢献できることは何かを探求する能力を養う
- ②地域社会の重要性を知り、地域の活性化に役立つことの喜びを感じる
- ③地域との関わりから気付く課題を探求し、問題解決能力を養い、社会人意識を養う

※具体的な運営組織図や活動の内容・「地域学習」の履修方法は当日パワーポイントで説明をします

2008 年度 地域連携事業団体

	団体名	活動
1	kobe-suma ビーチフェスティバル2008実行委員会須磨区 役所須磨消防署・神戸市体育協会他	須磨海岸のフェスティバル 各種のイベント同日開催
2	NPO法人 ア・ク・イ・ラ	日本の伝統文化のすばらしさを一般市民が再認識できる事業を企画
3	NPO法人 社会還元センターグループ「わ」	日本の子どもの遊び文化を体験的に伝える催しを継続的に開催
4	斑鳩小学校	地域学習への関わりは自然学校の場を活用
5	石海小学校	地域学習への関わりはプール解放の場を活用
6	神戸キャンドルナイト実行委員会 ホウキ星	各種キャンドルナイトを企画
7	神戸市、こうべUD広場	差別のない社会づくりをめざして
8	神戸市長田南スポーツクラブ	地域型スポーツクラブ普及活動の一環 夜間小学校の体育館解放
9	神戸市国際文化観光局観光交流課	協働と参画のまちづくりを推進し、市民の地域活動を支援
10	神戸市少年団	青少年の健全育成のために、奉仕活動を軸としてさまざまな体験的教育を行っている
11	神戸市諏訪山児童館	小学生を対象にした児童館でのさまざまな催しを企画
13	神戸市青少年会館ユースネット	青少年の健全育成のために、子どもや若者の求める場づくり、環境づくり、事業を企画
14	神戸市高倉台児童館	小学生を対象にした児童館でのさまざまな催しを企画
15	神戸市中学校教育研究会	障害をもつ中学生の教育支援
16	兵庫県少子対策本部	少子化の状況や対策等の情報の共有を図り、県と市町、企業や地域団体等の協働による少子対策を進めている
17	神戸女子大学教育研究部	離宮公園との共催による「須磨離宮公園学」を開講 地域の知的財産発掘講座を開設
18	神戸女子大学図書館	図書館の地域開放による各種の取り組みをおこなっている
19	神戸市立自然の家	六甲山の立地の中で、さまざまな青少年の教育的活動や自然環境教育を行っている
20	神戸野外活動JLOB	野外活動を通して生涯学習活動や青少年の自然環境教育を行っている
21	国際ロータリー第2680地区	国際社会奉仕連合団体
22	こども研究会関西	子どもの遊び環境がこどもの育成に大事であることから、各種の遊びの催しを企画
23	財団法人神戸フットボールクラブ	サッカーに興味をもつ子ども達に社会人クラブの幼児組みとして定期的活動を行っている
24	財団法人兵庫県肢体不自由児協会	肢体不自由児に対する療育思想の普及を図ることを目的とし、様々な事業を行っている
25	須磨浦商店街	須磨浦商店街のいろいろなイベントを通して須磨地域の活性化を図っている
26	須磨海岸を美しくする運動協議会	地域住民のボランティア活動で須磨海水浴場が多くの人に気持ちよく利用できるような各種の取り組みをしている
27	須磨区保健福祉部健康福祉課	区民の子育てを支援している。あんしんすこやか係、子育て支援係
28	須磨区役所まちづくり支援課	区民の様々な活動を支援する窓口
29	須磨寺前商友会	商店街のいろいろなイベントを通して須磨寺地域のコミュニティの活性化を図っている
30	須磨離宮傘亭復元実行委員会	武庫離宮の一部で、すばらしい月見の場所でもある傘亭の復元を目指して活動している
31	須磨離宮公園	王宮のバラ公園、植物公園として親しまれ、年間様々な催しが開かれている
32	そら祭り関東実行委員会	「音楽を通して、土地の大切さを知り、自然・人・場所・空をつなげる」をテーマに、すべての人々が、生活のために必要な【場所】の大切さを再確認できる祭りを目的としている。
33	大学コンソーシアム兵庫神戸地域交流委員会	事業プロジェクトごとに参加大学を求め無理のない、新たな連携方式を確立し、県下大学学生の教育・研究に資する
34	西宮市民グループ	西宮市に『平和・無防備条例』を実現する会』を発足させ平和運動を呼びかけている
35	兵庫県立但馬やまびこの郷	兵庫県下の不登校児童生徒の解決すべき課題に取り組むセンター的な存在

はじめに

本書は、本学の地域連携活動を集約し運営や活動状況を報告するもので、主に学生や教職員が関わった2008年度の活動をまとめたものです。

本学は、大学改革の目標のひとつに「地域が求める大学」を挙げており、大学の文化的・知的財産を地域社会へ還元する社会貢献活動は、大学の使命となっています。また学生は、地域の人々と交わりやボランティア活動を通して、地域社会に生きることの意味を体験的に学び、自立性・創造性・対話力を育んでいます。「地域学習」は社会の要請を受けて設ける新しい概念の学習で、地域社会が学びの場となっています。

一方、自治体は、地域の自然環境・歴史・文化・芸術など、さまざまな分野の地域固有の特色をしっかりと捉えていなければなりません、これらの複合的な研究が政策基盤として欠かせないものになっています。

この報告書によって本学の地域交流の実情が理解され、地域連携活動について今後の方向性や課題について検討し構築していくための資料となれば幸いです。

地域連携推進委員会
委員長 齊山 美津子

1. 地域連携をめざして

1) 委員会の設立

大学改革の柱の一つである「地域が求める大学」の具体的な取り組みとして、平成18年3月7日、本学と神戸市須磨区との間で「地域連携包括協定」が結ばれました。須磨区には、総合行政調整会議があり、各行政の情報が集約されるほか、地域団体にも須磨区役所をおとて情報提供されます。この事を契機に、18年度から連携事業を通して、本学の知的資源と学生の感性や創造性などを活かした地域活性化に貢献する体制づくりを行うことになりました。

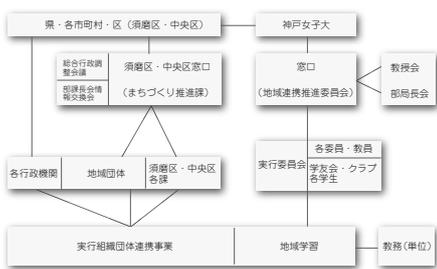
初年度(平成18年度)は学内の教職員と学生からなる「連携推進委員」と教員数人の「実行委員」を設け、連携事業の是非や実行プラン等の検討を行いました。19年度からは「地域連携推進委員会」として一つの委員会にまとめられ、教職員・学生・学生会の構成員で運営されることとなりました。

さっそく地域との連携事業を具現化するために窓口を設置し、情報交換によって連携を進めることになり、こうした連携の体制が整備されるのに合わせて、学生の教育課程、教育方法に「地域学習」という新しい概念の実践的学習科目を創設し、教育プログラムが立ち上げられました。

「地域学習」は、地域社会のフィールドで行う体験学習で、学生の自主性・自覚性を基調とするものです。学生は、地域社会の環境・歴史・文化・暮らしや活動を知ることで、地域社会の重要性、現代社会の役割の見直しを認識します。そして、地域社会に生きることの喜びや楽しさを実感し、ボランティア活動から社会奉仕の精神を知り、生涯学習に取り組むための基盤となる自己発見・自己啓発にも繋がっていきます。このことは、学生の自立性、創造性、対話力を育成するものとなります。

大学と地域の交流が盛んになることによって、関わった学生の教育効果と地域の活性化を期待し、委員会は、毎月1回の会合を開き、諸課題について検討を重ねています。

2) 大学と地域連携組織



3) 委員会構成

連携推進委員の発足に当たっては、当初から「地域学習」の原案づくりに参加していた教員や、すでに地域活動の経験のある教員が構成員となりました。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
構 成 員	連携推進委員会	連携推進委員会	連携推進委員会
	○坂場 功 木下 典子 齊山美津子 中山ふみ江 坂口 弘之 湯谷 和女 梶本 良夫 信貴 貴子 坂口 貴子 磯田 明子 岡本 陽子 梶本 典子 物産 秀美 学生会2名	○中山ふみ江 齊山美津子 坂下 達男 梶本 典子 木下 典子 岡本 陽子 清水 典子 磯田 明子 湯谷 和女 津田理恵子 平井 陽子 物産 秀美 学生会2名	○齊山美津子 坂下 達男 梶本 典子 木下 典子 岡本 陽子 清水 典子 磯田 明子 湯谷 和女 津田理恵子 平井 陽子 物産 秀美 学生会2名
	実行委員会		
	窓口 永田哲朗	窓口 永田哲朗	窓口 永田哲朗

4) 2008年度 地域連携事業団体

№	団 体 名	活 動
1	Kobe-suma ビーチフェスティバル 2008実行委員会須磨区役所・須磨区交番・神戸市体育協会	須磨海岸のフェスティバル 各イベント同日開催
2	NPO法人 アーク・イライ	日本の伝統文化の学びを一般市民が理解できる事業を企画
3	NPO法人 社会還元センターグループ「わ」	日本の子どもの遊び文化を体験的に伝える事業を継続的に開催
4	須磨小学校	地域学習への関わりは自然学校の場で行っている
5	石海小学校	地域学習への関わりはプール開放の場で行っている
6	神戸キヤンドルナイト実行委員会 学生会	各種キヤンドルナイトを企画
7	神戸市、こうろ公園広場	差別のない社会づくりをめざして
8	神戸市長田園スポーツクラブ	地域型スポーツクラブ普及活動の一環 須磨小学校の体育館開放
9	神戸市国際文化観光局交流課	協働と奉還のまちづくりを推進し、市民の地域活動を支援
10	神戸市少年団	青少年の健全育成のために、奉仕活動を軸としてさまざまな体験的教育を行っている
11	神戸市須磨山児童館	小学生を対象にした児童館でのさまざまな催しを企画
12	神戸市青少年会館ユースネット	青少年の健全育成のために、子どもや若者の求める場づくり、環境づくり、職業企画
13	神戸市高倉台児童館	小学生を対象にした児童館でのさまざまな催しを企画
14	神戸市学校教育研究会	協議をもつ中学生の教育支援
15	兵庫県少子対策本部	少子化の状況や対策等の最新の情報の共有を回り、県と市町、企業や地域団体等の協働による少子対策を進めている
16	神戸女子大学教育研究部	須磨灘公園との共催による「須磨灘公園学」を開講 地域の知的財産活用を推進
17	神戸女子大学図書館	図書館の地域開放による各種の取り組みを行っている
18	神戸市立自然の家	六甲山の立地の中で、さまざまな青少年の教育的活動や自然環境教育を行っている
19	神戸野外活動JLOB	野外活動を通じた生涯学習活動や青少年の自然環境教育を行っている
20	国際センター第2680地区	国際社会奉仕連合団体
21	こども研究会関西	子どもの遊び環境がこどもの育成に大事であることから、各種の遊びの催しを企画
22	財団法人神戸フットボールクラブ	サッカーに興味をもつ子ども達に、社会クラブの幼児期めとして定額の活動を企画
23	財団法人兵庫県民不自由児協会	身体不自由児に対する療育思想の普及を目的とし、様々な事業を行っている
24	須磨海岸商店街	須磨海岸商店街のいろいろなイベントを通して須磨地域の活性化を図っている
25	須磨海岸を美しくする運動協議会	地域住民のボランティア活動で須磨海岸水浴場が多くの人に気持ちよく利用できるような取り組みを行っている
26	須磨区保健福祉部健康福祉課	区民の子育てを支援している。あんしん子育てが、子育て支援係
27	須磨区役所まちづくり支援課	区民の様々な活動を支援する窓口
28	須磨寺前商店街	須磨寺前商店街のいろいろなイベントを通して須磨寺地域のコミュニティの活性化を図っている
29	須磨灘公園学実行委員会	須磨灘公園の一部で、すばらしい月見の場所でもある金盞の園元を目標として活動している

No.	団体名	活動
30	須磨離宮公園	主要のバラ公園、植物公園として親しまれ、年間様々な催しを開いている
31	せら祭り実行委員会	「音楽を通して、土地の大切さを知り、自然・場所・そらをつなげる」をテーマに、すべての人々が、生活のために必要な【場所】の大切さを再認識できる祭りを目的としている。
32	大学コンソーシアム兵庫神戸地域交流委員会	事業プロジェクトごとに参加大学を求め、無理のない、新たな連携方式を確立し、県下大学生の教育・研究に資する
33	西宮市民グループ	西宮市に、「まち・暮らし・暮らし」を実現する策を発見させ平和運動を呼びかけている
34	兵庫県立但馬やまびこの郷	兵庫県下の不登校児童生徒の解決すべき課題に際りむきセンター的存在

保育（子育て支援・預かり保育などの補助）

1	高倉台・寺井畑地域連絡会	14	神戸市 西須磨幼稚園
2	高倉台保育園	15	神戸市 高倉台幼稚園
3	北須磨保育センター	16	神戸市 東須磨児童館
4	明石マザーズスクール	17	神戸市 山田幼稚園
5	神戸市 ひだまり文庫	18	神戸市 有楽幼稚園
6	神戸市 興立こども病院	19	神戸市 いぶき幼稚園
7	神戸市 ちっちゃな保育所	20	明石市 花園幼稚園
8	神戸市 石瀬川保育所	21	明石市 山手幼稚園
9	尼崎市 浜幼稚園	22	明石市 興純幼稚園
10	西宮市 松秀幼稚園	23	姫路市 英賀幼稚園
11	神戸市 たもん幼稚園	24	西脇市 桜丘幼稚園
12	神戸市 みどりのまち幼稚園	25	加古川市 宮内幼稚園
13	神戸市 栄谷こすもす幼稚園		

2. 須磨離宮公園 CP 連携

1) キャンパス・パーク連携（略称、CP 連携）

本学と神戸市立須磨離宮公園とが、2006年12月22日（金曜日）に「キャンパス・パーク（略称、CP）連携」の覚書を取り交わす連携式を行いました。「CP」は、大学の「Campus」と公園の「Park」のそれぞれの頭文字によるものです。CPは双方が相互に施設を開放して利用しあうもので、こうした大学と公園の連携は全国でも初めてです。本学と須磨離宮公園とは隣接しており、本学が昭和41年（1966）に開校し、公園が昭和42年（1967）に相次いで開園しました。これまで、公園の行事には、本学のクラブ活動やボランティアの学生が参加するなど、親密な関係にありましたが、双方が開校、開園から40年を数えるのを機会に、連携の話が進められました。

この連携により、本学の教職員、学生は自由に公園に入園することができるようになり、大学の第2キャンパスとして新入生のオリエンテーションなど大学の行事や青空ゼミなどの授業、研究会、大学祭、クラブ活動の発表会などが、緑豊かな広々とした空間を使って行えるようになりました。公園も、大学生のフレッシュなアイデアやエネルギーを生かした行事で活性化を図るとともに、大学の加的資源をもとに、公園の歴史の共同研究や大学施設を使ったシンポジウムなどを行っています。



2006年CP連携式の関係者

① 連携の概要

- ・締結日：平成18年12月22日（覚書）
- ・名称：キャンパス・パーク連携（略称CP連携）
- ・内容：施設の相互利用、共同研究、イベント等の共同開催など
- ・特徴：全面的な連携は全国でも例がなく（財）公園緑地協会調べ）今後の成果が期待されている

3

2008年度新たに「須磨離宮森の倶楽部」発足

2009年1月31日（土）「須磨離宮森の倶楽部」の準備会が開かれました。本学キャンパスの背後には保安林などの所有地があり、大学全体の敷地は約16万平方メートル、公園の管理する敷地をあわせると約100万平方メートルとなり、この広大な敷地は豊かな自然の営みを身近に感じる事ができます。

離宮設置より100年を経過した由緒ある「離宮の森」を、市民参加で美しく、豊かな森にするともに、森の恵も享受する楽しい倶楽部にしようとする市民に呼びかけられ、神戸女子大学をはじめ、賛同する地域の幅広い関係者たちが集まりました。

構成 須磨離宮公園 神戸女子大学 離宮植物友の会 離宮落ち葉堆肥クラブ 離宮樂の会 北須磨生物かんさつクラブ アドバイザー（森の料理・アルプホルン・ビザ普及に情熱を持っている人）

活動（案） バタフライガーデン（葉の森）の整備 華麗なる岡崎山散策コース再生 神戸女子大学裏山と離宮公園散策路再生 カブト・クワガタの森整備 子どもの森周辺里山整備 落ち葉堆肥づくり 樹名札かけ バームクーヘンづくり 炭焼き キノコ栽培など

実施日 1月31日（土） 離宮の森倶楽部準備会
2月28日（土） 森の文化祭打合せ
3月22日（日） 森の文化祭

森の文化祭は残念ながら雨で中止になりましたが、倶楽部員は集まり、各パートで準備をしていた事を披露しました。北須磨生物かんさつクラブは、食虫のイナゴやバッタ、タガメなどを調理して試食できるように、離宮植物友の会は、栗のぼのぼや昔懐かしいニッケなど、離宮樂の会は、ふ化した蝶や幼虫などを持参しそれぞれの予定していた活動を説明し和やかに楽しいひと時を過ごしました。森の間伐材で作る予定であった巨大バームクーヘンも次回のお楽しみとなりましたが、森の仲間達によってどんな事、どんなものが生まれ得てくるか、みんなわくわくしています。



4

CP連携 事業

活動名：ローズ・フェスタ
 主催団体：神戸女子大学
 実施日：2008年5月25日（日）
 場所：須磨離宮公園
 活動内容：コベリアス（神戸女子大学生）が主催する音楽祭
 参加学生数：約150名

地域と学生のハーモニーの輪が広がる愛されるフェスタを目指して

「ローズガーデンフェスティバル」を開催中の須磨離宮公園において、第2回目となる「ローズ・フェスタ」を開催しました。渡田学長の開式の挨拶で幕をあげたフェスタは、離宮公園の高畑園長や園のスタッフの皆様のご協力とボランティア学生の支えによって無事進行することができ、各出演グループは花と一体となったステキな演技を奏でてくれました。

出演クラブは、舞台での発表を神戸女子大学管弦楽団・手話部・琴曲部・服飾研究会・コーラス部・軽音楽部が行い、パン研究会は恒例となっている「健康パン」の無料配布を行いました。



特に今年は地域連携などでお世話になっている地元高倉台から、「高倉台コールエコー」と「高倉台男声合唱団」のみならずにもご参加いただくなど、CP（キャンパス・パーク）連携を活用していただけた嬉しいイベントとなりました。

CP連携 事業



色とりどりの満開のバラを背景にして、地域のコーラスグループ、高倉台コールエコーや高倉台男声合唱団もすばらしいハーモニーを醸し出しバラもうっとりとした。

パン研究会は、750個のパンに心こめたメッセージを添えて来園の方々に無料配布しました。



「自然との一体感」を大切にしたい今年のフェスタでは、須磨離宮公園の景観を邪魔しないようにとステージの設置にも工夫を凝らし、王侯貴族の舊園の散策を楽しみながら音楽やコーラス・ファッションショーを楽しんでいただきました。

5月を代表する催しとして、須磨離宮公園の春のローズ・フェスティバルは定着していますが、神戸女子大学のコベリアスも加えていただき、さらに地域と学生のハーモニーの輪が広がるすばらしい交流の場となるよう工夫を重ねていきたいと思っています。

（教育学科 青山英洋子）
 （学芸学科 横 美 りは）

CP連携 事業

活動名：ローズウェディング in 須磨離宮公園
 主催：ローズウェディング実行委員会
 実施日：2008年5月31日（土）
 場所：須磨離宮公園
 活動内容：須磨離宮公園において結婚式を挙げるカップルの結婚式プロデュースを行う。
 須磨離宮公園のバラを用いた「ローズウェディング」をテーマとし、会場設営、進行等を行う。
 参加学生数：31名

CP（キャンパス・パーク）連携を結んでいる須磨離宮公園において結婚式を行うカップルの挙式部分を家政学科2～3回生の学生たちがプロデュースすることになりました。



挙式まで～メイキング～

結婚式をまだ見たことのない学生も多く、「結婚式」を勉強することから始まりました。結婚式場（北野クラブ sola さんにご協力いただきました）に見学に行き、挙式の流れなどをスタッフの方に教えていただきました。話を聞いている学生の目は、まるで自分が結婚するかのようになりキラキラ輝いていました。

本物の挙式のビデオを見て、スタッフの動きや会場の装飾などを目の当たりにするとこれかしないといけぬ事の多さにびっくりした反面、「よし！やろう！」と意気込む学生たち。[会場設営・イス・ブートニア・バラソル] 各班に分かれて試作品に取り掛かりました。各班の方向性を合わせるため、班長会議では各班の進行具合などを確認しました。出来上がったものは離宮公園に持って行き出来具合をチェック！考えていたものは意外と小さく、離宮公園の空間の大きさを改めて感じ、試行錯誤しながらも素敵な挙式を作り上げようという真鍮なまざしで作業を続けました。

挙式前日は新郎・新婦を交え本番さながらのリハーサルを行いました。いよいよ挙式がせまり、全員で当日の動きや役割分担を最終確認。明日の天気予報は曇/雨。緊張と不安の中、準備を続けました。

挙式当日～いよいよ本番～

朝から曇り空、ちらほら雨も降っていました。当日に準備しようと思っていた作業の中には雨が降っていると飾り付けができないものもあり、「雨は上がるのか？ちゃんと飾り付けもできるのか？」といった焦りを感じながらもスタートをかける学生たち。

14時、私たちの願いが叶い、無事雨も上がり挙式がスタートしました。階段から新郎・新婦が登場すると拍手と歓声が起きました。式は順調に進み全て滞りなく終了しました。ご親族の方が園内を散策されている間に学生たちだけで新郎新婦にお祝いの言葉とフラワーシャワーをプレゼントしました。

新郎・新婦やご親族の方々にも大変喜んで頂け、最高の達成感味わうことができました。「私も将来、ここで結婚式をあげたい・・・」と夢見る学生の姿もありました。学生だけではなく、関わったすべての人達の心に残る挙式となりました。

（学芸学科 横 美 りは）





実際の挙式会場見学
結婚式の縮意とは？
集合写真ってこんな感じ？
学内での打ち合わせ風景
挙式についてのビデオ学習1
挙式についてのビデオ学習2
部長会議風景
新郎・新婦と初顔合わせ
当日 作業風景
パラソル飾り付け



当日 挙式会場 準備風景
前日 作業風景 会場装花
当日 作業風景
フラワーシャワー準備
当日 リハーサル確認
当日 作業風景
ウェルカムボード
当日 作業風景
当日 作業風景

運動 各 源氏物語千年紀 月見の宴
主催団体：須磨離宮公園
実施日：2008年10月11日
場所：須磨離宮公園

事業内容

源氏物語千年紀月見の宴きものショー

平成20年は源氏物語が世に出て1000年に当たる。源氏物語は光源氏が須磨で月見をする場面から書き始められたといわれており、須磨離宮公園での「月見の宴」は、源氏物語千年紀と銘打って、10月11日に行われた。この月見の宴に家政学科被服平面構成ゼミ生7人は、光源氏に関わりのある十三人の女性のきものを源氏物語から読み解き、現代のきもの色・柄で表現、きもで纏った源氏物語をショー形式で発表した。
光源氏と紫の上の装束も源氏物語の中から読み解いて再現したものである。光源氏が着用している板色の直衣は、古い長褌袴を仕立て直し、紫の上の蘇芳色の表着は時代衣装用の高価な生地を用いている。その他のきものは古着を洗い張りして学生が仕立て直すという昔ながらの衣生活を体験。きもの製作に当たっては夏休み返上で取り組んだ。ゼミ生以外のモデルはモデル募集に応じてくれた文学部の学生である。特に、光源氏のモデルは1回生とは思えない堂々とした歩き方で多くファンを生み出した。



きものショー
「光源氏と十三人の女君」

紫の上の装束の染色と裁断
表着の中に着る五衣は約40mの絹を蘇芳の濃液で染めました。8mづつ1色に染



めるのは大変な作業です。染めた布が乾かすまでに表着の制作をしました。高価な布の裁断に緊張の連続です。

オープニングには松風・村雨が登場

光源氏のモデルは在原行平、須磨には在原行平と松風、村雨姉妹の恋物語が語り伝えられていることから、ショーのオープニングは昨年のゼミ生が製作した衣装を着た松風・村雨でスタート。



モデルには留学生や文学部の学生も

交換留学生として本学で日本文学を勉強中の華南師範大学の学生もモデルとして登場。良い思い出に帰国できたことでしょう。

観客も息をのむ

若い源氏に心奪われ、教養ある大人の女性でありながら嫉妬で生霊にまでなってしまう六条御息所。燃え上がる情熱の緋色を知性という思い薄物で抑えて、怪しげな音楽と共に舞台上に上げると、周囲はそれらしい雰囲気包まれるほどの見事なウォーキングでした。
高貴な紫色の着物に、平安時代の重ね色目の伊達袴を用いて明石の君の高貴さを表現しました。



今宵は十三夜なり

きものショーは源氏物語千年紀としての「月見の宴」の最後を飾るにふさわしい構成で、エンディングでは平安装束を着た光源氏と紫の上が登場。10月11日は十五夜ならみ十三夜でしたが、千年前にタイムスリップして、月見をしているかのような雰囲気にとっぴり没りながら帰って下さったお客様もおられたとか。

(家政学科 岡本陽子)

地域連携包括協定事業（大学校内）

活動名：ふれあい給食
 主催団体：神戸女子大学
 実施日：11月25日（火曜日）12月16日（火曜日）
 場所：神戸女子大学 学生食堂特別室
 活動内容：ひとり暮らし老人のふれあい給食

11月
 月一回定期的に開催されているふれあい給食が開催されました。
 準備は家政学部管理栄養士養成課程の駿河 明子特任教授が指導し、管理栄養士養成課程の学生有志が配膳のお世話、交流などを行いました。
 毎回参加者が楽しみにしていただける、ボランティア学生によるお楽しみプログラムでは、茶道部がお手前を披露しました。
 連携協力をしているNPO「輝たかくら台」の玉森 たりは会長が司会進行し、メンバーのみなさんが運営して合唱や体操を取り入れた「北国の春」で体を動かし楽しい活動となりました。
 次回の12月は参加者みなさんが楽しみにしている、恒例の「おたのしみ会」です。



地域連携包括協定事業（大学校内）

12月
 12月16日・火曜日に学生食堂特別室において、管理栄養士養成課程の駿河明子特任教授が主催責任者を務める定例の12月ふれあい給食が開催され、参加者が楽しみにしている「お楽しみ会」の特別プログラムが催されました。
 配膳などのお世話は管理栄養士養成課程の学生で組織されているV-ネットのメンバー、クラブ出演はクラシックギター部が参加しました。
 会場の壁面装飾は平成19年に引き続き、教育学科の子育て支援くらぶ「あい・あい」が参加協力しており、ふれあい給食を通して高年齢の高齢者のみなさんとの交流の輪が広がっています。
 会場には終始和やかな笑顔と笑い声がこだまして、楽しいお楽しみ会となりました。

プログラム
 ・クラシックギター部ミニコンサート
 ・会食（クリスマスメニュー・手作りケーキ）
 ・ビンゴ大会
 （管理栄養士養成課程 駿河明子）

2008年度 ふれあい給食参加者記録

日	時	女	男	計	お楽しみプログラム
28	20:42	28	21	49	コーラス部
29	5:27	25	25	50	茶道部
30	6:24	27	23	50	子供部
31	7:22	28	28	56	ダンス部
32	9:30	30	17	47	オーケストラ部
33	10:21	24	18	42	デンマーク体操部
34	11:25	27	21	48	茶道部
35	12:16	26	25	51	クラシックギター部 ビンゴゲーム
36	21:20	26	18	44	ワンドラマ部
37	2:24	29	15	44	服飾研究部



地域連携包括協定事業（大学校外）

活動名：大学生と英語で遊ぼう
 主催：神戸女子大学教育学科 児童英語 木下せき
 実施日：1年間のうち
 東須磨小学校 4回 土曜日13時30分～15時
 北須磨小学校 5回～10回 土曜日 10時～11時30分
 場所：東須磨小学校「小学生英語クラブ」
 北須磨小学校「学び」

活動内容：1. 「教育学演習」「児童英語教育演習」「児童英語実習」の科目で学んだ内容を、子どもたちを対象に活用実践し、子どもの英語活動を指導する力を養う。
 2. 近い将来、小学校に英語活動が導入されることに先立ち、子どもたちの英語に対する興味を育てる。
 以上の目的を大切にしながら、近隣の小学校、子どもたち、保護者との交流を深める。



実施経過：平成15年度大学祭における子ども向けのイベントとして「英語で遊ぼう」を実施したことをきっかけとして、北須磨小学校の「北須磨スゴワクラブ」の中に「小学生英語クラブ-英語で遊ぼう」が発足し現在に至る。
 平成18年度に新しく「児童英語科目群」がカリキュラムに加わり、その実践練習の場を広げるために、東須磨小学校の「学び」の活動の一つとして「東須磨-英語で遊ぼう」が発足し現在に至る。

実施方法：北須磨小学校「小学生英語クラブ-英語で遊ぼう」は他のクラブと同じく、メンバーとして登録した子どもたちが1年間参加する。1年に10回から5回実施、土曜日の10時から11時半までの90分間、楽しい英語を体験する。
 東須磨小学校「学び」は、保護者が中心になって運営されている子どもたちのための土曜日の活動。その一つとして1年に4回、保護者の担当委員が募集した子どもたちに、午後1時から3時までの90分間、楽しい英語活動を指導する。



地域連携包括協定事業（大学校外）



学生の活動内容：活動は年度のはじめに決められた1年間のスケジュールにそって実施する。活動には1年間を通して、北須磨小学校は児童英語ゼミ3回生全員、東須磨小学校は3回生「児童英語実習」履修生全員が参加した。なお、毎年一度、1回生の「児童英語教育演習」履修生全員が東須磨小学校で活動を行った。
 活動は毎回、指導案の作成、必要な教材の準備、指導の練習のためにかなりの時間を用いて実施した。10人から20人の学生が一緒に子どもたちの指導にあたるため、毎回いくつかの小グループに分れて、それぞれの担当部分の計画準備をし、全員でそれを実施した。
 学生たちの指導力を養うことと、子どもたちの英語に対する興味を育てるという、2つの目的を大切にしながら、小学校のクラスでの学習とは少し異なった「英語で遊ぶ」時間とした。

一般的評価：楽しい英語の時間になるように工夫していることもあって、子どもたちの感想文、保護者の意見などには、毎回楽しみにしていることが見える。学生たちも、子どもたちを理解し、指導する力を養う機会として有意義な活動であると認識している。

今後の課題：保護者の活動実施回数増加の希望、学生と担当教員の時間的負担の軽減など、地域と大学との要望にかなうような実施方法を考えていくことが課題となっている。
 （教育学科 木下せき）

活動実施回数と参加者数

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	合 計
実施回数合計	9	11	9	10	10	10	53
参加児童数合計	160	226	263	343	236	312	1539
参加学生数合計	60	68	100	181	292	245	946

地域連携包括協定事業（大学校外）

活動名：七夕まつり
 主催：須磨寺前商店会
 実施日：2008年7月5日（土）
 場 所：須磨寺前商店街
 活動内容：子どもたちの交流遊び、イベント（金魚すくい、スーパーボールすくい等）のお手伝い、簡単なゲーム等の企画
 参加学生数：20名



今年度で4回目の参加となる須磨寺前商店街の七夕まつり。浴衣を着て参加する学生が多いのもこの七夕まつりの特徴です。今年度は、主催者側の体制が変更になったことや、これまで利用できた場所が使えなくなったことなど、これまでのやり方が密着できないという事態も起こりました。

学生オリジナルの子ども遊び企画は、これまで子どもの遊び場に使われてもらっていた空き地が使えないということで、今回は「商店街全部を使って遊ぼう！」ということになりました。

学生達が企画したゲームは、「見つけてじゃんけん！お星様をさがせ！」というタイトルです。1〜5コのお星様を体のどこかにつけた学生達が商店街をうろうろし、ゲームに参加する子ども達（七夕の短冊に願いごとを書くことが参加資格）はそのお星さん学生を星の数の



参加学生と商店街のスタッフで記念撮影

クラブの地域連携活動

活動名：ゴーキーキッカーズ
 主催団体：神戸フットボールクラブ
 実施日：2008年度・月3回
 場 所：磯上公園球技場、小野浜公園球技場、海浜公園球技場のいずれか
 活動内容：神戸フットボールクラブ幼稚園チームの指導補助
 参加学生数：468名（延べ 教育学科13名、月3回×12ヶ月）



神戸まつりのパレードに参加



あいさつ



動き作り系（コーン倒し）

体操

ボールフーリング系（左：ボール遊び、右：ボール投げ）

ゴーキーキッカーズは2008年度で設立32年目を迎えます。この間ずっと私たち神戸女子大学の学生がお手伝いさせていただいています。毎月3回、幼児を対象に、体を動かすことの楽しさ、友達と共にスポーツをすることの楽しさ、サッカーの楽しさを感じてもらえるよう活動しています。

私たちの担当している幼稚園チームは、子どもたちが人生で初めてサッカーをする場所でもあります。「サッカーってこんなに楽しいんだよ」と子どもたちに感じてもらえるように、日々努めています。全て私たちが行うので、出席カードやスクールでのルール、イベント時

地域連携包括協定事業（大学校外）



カブトムシを配る学生たち

金魚すくいを担当する学生たち

1から順番に見つけてじゃんけんをしていくというルールです。商店街に散らばっている学生を見つけるのはなかなか難しかったようで、親子で一緒に探す姿も見られました。見つけた子どもたちは嬉しそう

にじゃんけんに興じていました。じゃんけんは大盛り上がり。すべての星を見つけると、最後のお楽しみのカンディのつかみ取りでした。場所がないという条件を避けるべく活用して、商店街全体をフィールドとしたこの企画は、子どもたちのいきいきとした笑顔があふれ、大成功をおさめました。

（家政学科 榎典子）



見つけてじゃんけん！ お星様をさがせ！

クラブの地域連携活動

のプレゼントや卒業時のプレゼントは全部私たちの手作りです。90分の練習メニューは「あいさつ・体操・動き作り系・ボールフーリング系・試合」です。動き作り系のメニューでは、鬼ごっこやコーン倒しなど体をほぐすメニューを考えます。「東京タワー鬼ごっこがしたい」と子どもたちから意見が出る場合もあります。その場合は子どもたちの意見を取り入れます。このように、ただ参加するだけの参加型ではなく子どもたちが自分たちで作っていく参画型の練習になるように心がけています。子どもと直接触れ合うことで、いかに自分たちが子ども目線でいかうということを感じます。「子どもの視点に立つ」と思うことは簡単ですが、意識することは予想以上に難しいということがわかりました。また、「個に応じた教育・指導」も同様です。私たちはこの活動を通して、教育的スキルも自然に学んでいます。一人ひとりの性格や特徴を生かした環境づくり、声かけの仕方を学んでいます。

（クラブ学生 須山南津子）



試合（左：ルール説明を聞く子どもたち、右：必死にボールを追いかける子どもたち）



4. 地域学習

1) 地域学習の目標

社会規範を内面化する地域住民の関係が希薄になったために家庭の孤立化が進み、子育ての悩みによる幼児虐待などの悲惨な事件、夫婦間や親子間のコミュニケーション不足から起こる家庭内暴力の多発、引きこもり、不登校、少年犯罪など深刻な社会問題を提起しています。こうした社会環境の中で注目されているのが地域社会の役割です。要を消しつつある共同体としての地域社会に替わって、コミュニティ型の地域社会がネットワークを作り、子育てや高齢老人への支援、子ども達の安全確保、家庭内暴力の防止など、地域社会が家庭の機能を補うことが期待されています。

本学は、こうした社会の実情を捉え、学生がまず、地域社会に関わり、地域の活動の実際を体験することを通して、地域社会の活性化に役立つことの喜びを知り、問題解決能力を養い、また、自分たちが地域社会に対して何が貢献できるのか、現在地域社会に何が求められているのか、地域社会の重要性を知ること、社会人としての認識や意識が高められると考えています。本学は、教員、幼稚園教諭、保育士、社会福祉士、栄養教諭、管理栄養士などの職業を目指している学生が多く、活動する際には地域社会との交わり、組織運営の仕組み、リーダーシップのあり方、ネットワークの作りなどの能力養成が重要です。この学習によって、地域社会能力の向上を期待すると共に、女性としてのやさしさ、思いやり、しなやかな感性、行動力、信頼される大人への成長を期待するものです。

2) ねらい

地域学習は、学生たちが選修事業などに関することによって、地域社会の諸活動や社会の仕組み等を実際に体験し学習するものです。

- ①現在、地域社会に求められているものは何かを知り、自分たちが貢献できることは何かを探求する能力を養う
- ②地域社会の重要性を知り、地域の活性化に役立つことの喜びを感じる。
- ③地域と関わらうから役立つ課題を探求し、問題解決能力を養い、社会人意識を養う

3) 活動内容 (2008年度)

順	事業名	実施日時	月日	場所	内容
1	神戸女子大学お花見	神戸女子大学レクリエーション部	4月13日	神戸女子大学	イベント参加：食糧実習の開催
2	六甲山山二区競走	神戸市少年団	4月19日	摂摩運動公園から長谷川	イベント参加：子ども達の交流
3	白鷺城フェスティバル	NPO法人クワイラ	4月29日	姫路城跡の丸広場	イベントの盛り・補助
4	お城さんと遊ぼう	神戸市園芸中心児童部	5月10日	神戸市陣屋山児童部	子どもと遊ぶ
5	さつまいもキャンパンドライブ	摂摩聖心学園 神戸キャンパンドライブ実行委員会	5月10日、11日	摂摩聖心学園	キャンパンドライブ、ポスター、冊子、案内
6	神戸まつり	摂摩区役所まちづくり課	5月17日	摂摩聖心学園	イベント参加：食糧実習
7	春の祭市	摂摩市商店街	5月18日	摂摩市商店街	イベント参加：食糧実習
8	ハラマ祭ラリー	神戸女子大学	5月24日	摂摩聖心学園	子どもへの対応支援
9	ローズフェスタ	神戸女子大学	5月25日	摂摩聖心学園	イベント参加：進行練習、写真撮影、アサイン
10	ハラマ選定作業	神戸女子大学	5月27日	摂摩聖心学園	ハラマ選定作業
11	プレイフルキャンパンドライブ	子ども研究倶楽部	5月31日	摂摩聖心学園	イベント準備・進行
12	清瀬川クリーン作戦	ロータリークラブ	6月1日	清瀬川一帯のから神戸女子大学	地域清掃活動
13	花道鑑賞会	摂摩聖心学園	6月2日、10日	摂摩聖心学園	食糧実習
14	学芸しんがっくお祭り	神戸市中学校教育研究会	6月28日~29日	しまむせの村	在校生の活躍
15	摂摩海岸クリーン作戦	摂摩海岸を美しくする運動協議会	6月29日	摂摩海岸	イベント参加：作業練習、アサイン
16	チャトルーム講座	摂摩聖心学園	7月2日	摂摩聖心学園	参加
17	七夕まつり	摂摩市商店街	7月5日	摂摩市商店街	イベント参加：一部の地区の清掃活動
18	石海みづあそび	石海小学校	7月29日	石海小学校	イベント参加
19	他と子への食育セミナー	摂摩区保健福祉部健康福祉課	8月1日	摂摩聖心学園	食育実習・調理実習・食糧実習
20	母子園人文学	摂摩市グループ	8月2日	摂摩聖心学園	食育実習・調理実習・食糧実習
21	他と子への食育セミナー	摂摩区保健福祉部健康福祉課	8月20日	神戸市立吉田の台台校	食育実習・調理実習・食糧実習
22	自然のふし	神戸市立自然の家	8月23、24日	神戸市立自然の家	キャンプ補助
23	石海みづあそび	石海小学校	8月29日	石海小学校	イベント参加
24	おニューアースエリーベ	神戸市立自然の家	8月31日	神戸市立自然の家	イベント参加：作業練習、アサイン
25	六甲山山二区競走	神戸市少年団	9月13日	摂摩運動公園から長谷川	イベント参加
26	お城さんと遊ぼう	お城さんと遊ぼう実行委員会・摂摩区児童部・神戸市児童部	9月14日	摂摩海岸シーパル	摂摩海岸の清掃やボランティア(1日)・写真撮影
27	まわりの子ども観察会	神戸女子大学・兵庫県少年対策本部	9月20日、11月22日	神戸女子大学	児童の生活や環境について学ぶ
28	さらさら祭り	さらさら祭実行委員会	10月4日	摂摩聖心学園	音楽ライブの準備
29	さつまいもキャンパンドライブ	摂摩聖心学園	10月11日	名谷新田広場	キャンパンドライブ・写真撮影
30	摂摩聖心「月見の宴」	摂摩聖心学園	10月11日	摂摩聖心学園	イベント運営補助
31	スマアットレジャー	摂摩運動公園	10月11日~25日	摂摩運動公園	摂摩運動公園でエリアス
32	摂摩聖心「月見の宴」	摂摩聖心学園	10月12日	摂摩聖心学園	イベント準備・写真撮影・写真

4) 「地域学習」の進め方

学生

この科目の授業形態は主に学外で行われるもので、個人、クラブ、ゼミ単位で地域に関わる活動に参加し、実践を通して学習するものである。

「地域学習」として単位認定を希望する人は必ず年度始めに履修登録をしてください。

履修方法

期間は通年で、前期履修申請期間中に登録する。
通年で15回の活動を最終レポートが認められた時2単位認定される。(年度内終了)やむを得ず通年で15回の活動ができなかった時は、辞退届を教務課に提出する。(その年に活動した回数は2年間有効であるので、翌年再履修をした時引き継ぎ活用できる)

- ①「地域学習」をWEB登録し、科目担当教員(青山)から履修カード・活動記録レポートを受け取る。

参加形態の主なる所を決め担当教員氏名を最初に書いておく。
②科目の目的、授業の方法を確認する。ここで地域とは兵庫県内をいう。

- ③参加形態はクラブ単位、ゼミ単位、個人がある。
A…大学と自治体、地域団体等と共同で行う地域活動
(指導担当 地域連携推進委員会教員)

B…クラブ、ゼミ、学科やコースで行う地域活動 (指導担当、クラブ、ゼミの教員)

- ④各地域活動への参加方法は担当教員、A館207掲示板、地域連携ホームページなどから情報を得る。

⑤事業当日、履修カードを持参し、事業主催責任者の押印をいただく。

⑥ノートに、参加した本人の活動内容を記録しておく。

⑦15回を終えた時点で最終レポートを担当教員に提出する。単位は年度の後期に記される。

⑧最終レポートの様式 地域学習欄よりダウンロードし、PCで記入後プリントアウトし提出する。

教員

①クラブ、ゼミ、学科やコースで地域活動の依頼を受ける時は、教員が同意できる、できないにかかわらず、責任をもって指導を行う。その際、活動名や内容について窓口(地域連携推進委員会)に連絡しておく。

②個人参加者には地域連携推進委員長が責任をもって指導する。

地域学習の記録 (例A)

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/26	4)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
10/13	2)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
10/18	6)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
10/24	4)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
11/7	10)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
11/14	11)	摂摩ボランティア	摂摩聖心学園	C	a	
11/29	12)	秋の陣ラン	摂摩聖心学園	C	a	
11/21	13)	摂摩ボランティア	学校法人 摂摩聖心学園	C	a	
11/29	14)	まわりの子ども観察会	神戸女子大学	C	a	
12/11	15)	お城さんと遊ぼう	お城さんと遊ぼう実行委員会	C	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	11)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	12)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	13)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	14)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	15)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

年月日	活動名称	所属団体名	指導教員	出席	評価	単位
8/27	1)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
8/22	2)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/13	3)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
10/29	4)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
11/19	5)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/7	6)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/21	7)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
12/28	8)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/11	9)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	
1/25	10)	ゴーストウォーカー	神戸FC	B	a	

地域学習の記録(例C)

【注意事項】
 ●地域学習は、15回の地域活動の参加と、最後に提出されるレポートによって単位認定が行われます。
 ●このレポートは最終提出するまで閲覧できませんので、大切に保管してください。また、このレポートとともに「地域学習記録」(レポート)を回収していただきます。
 ●15回の参加状況には、カードと最終レポートを別冊表に提出し、併せて提出することが必要です。
 ●参加状況は下記のように分類して記入してください。
 Aー大学と自治体、地域団体等と共同で行う地域活動 (例：ゼミ、クラブ、及び同好会単位で行う地域活動)
 Bーゼミ、クラブ、及び同好会単位で行う地域活動 (例：ゼミ、クラブ、及び同好会単位の教員)
 Cーその他 (例：高・地域連携推進委員会の教員)

年月日	参加者名	所属	参加形態	参加状況
2008.5.17	神戸市の環境学習会	神戸市立東灘区立小学校	B	A
5.18	2回 聖母学院前南町 新倉の菜園	聖母学院前南町	C	B
5.24	3回 赤のバラ探検ツアー	神戸女子大学	C	A
5.25	4) ローズフェスタ	神戸女子大学	A	B
5.27	5回 親善公園ハイパードンパ	西川区立	B	A

年月日	参加者名	所属	参加形態	参加状況
5.31	6) 7月(7月5日~7月11日) 体育祭活動	五木小研究会	B	A
5.14	8) 園遊会(7月22日)	実行委員会	B	A
10.14	9) 秋の収穫祭	神戸女子大学	C	A
11.9	10) 子どものもので遊ぶ	神戸市東灘区立小学校	C	A
11.14	11) 秋のクラフト	神戸市東灘区立小学校	B	A
11.9	12) 感謝参幸	高野寺南無光天	C	A
11.14	13) 秋の洋ラン展	神戸市東灘区立小学校	C	A
11.24	14) カルタコンクール	神戸市東灘区立小学校	C	A
12.11	15) ミニマラソン	神戸市東灘区立小学校	C	A

地域活動の履修確認
 受講期間 前日現在履修名 合格 印

クラブ・同好会の年間地域活動

年月日	事業名	場所	交流団体	内容
4月11日	留学生歓迎会	神戸女子大学	留学生歓迎会	
4月13日	お花見コンサート	浜藤養老園	コンサート	
4月25日	ふれあい体験会	神戸女子大学	コンサート	
5月25日	ミニコンサート	シーバル浜藤	ミニコンサート	
5月25日	ローズフェスタ	浜藤養老園	コンサート	
10月12日	ミニコンサート	シーバル浜藤	ミニコンサート	
4月6日	さくらまつり	妙法寺川公園	実行委員会	浜藤区民と交流
5月25日	ローズ・フェスタ	浜藤養老園	人題一般市民	手話コース発表
7月26日	子ども向け手話講習会	兵庫区役所地下	社会福祉協会・手話サークル(あしたの神戸)・神戸ろうあ協会兵庫支部	講習会補助
9月10日	飯巻参り	飯巻商店街	商店街参り実行委員会	運営補助
9月15日	ことばと養育学	ことばと養育学校	ことばと養育学校	児童の発表見学
9月12日	神戸臨交	神戸臨交	神戸臨交	生徒との交流
10月26日	ことば公開デー	ことばと養育学校	ことばと養育学校	児童の発表見学
12月6日	高倉台児童館の会	高倉台児童館	高倉台児童館	児童の発表見学
12月14日	親睦協会クリスマスパーティ	親睦協会	神戸市立婦人会館	交流・手話コース発表
12月20日	高倉台サークル発表会	高倉台サークル	高倉台サークル	交流・手話コース発表
3月10日	長田南小学校グランドツアー	長田南小学校	長田南小学校	交流・手話コース発表
3月28日	子ども向け手話講習会	兵庫区役所地下	社会福祉協会	講習会補助

年月日	事業名	場所	交流団体	内容
1.2月	納会	甲子園ノボテル	源流会	納め会
1月	交流会	高野養老園内庭	源流会	交流会
4月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
5月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
4月	白鷺城フェスティバル	姫路城	フェスティバル実行委員会	会場スタッフ
5月17日	神戸祭り	浜藤養老園	浜藤区役所	体験発表
6月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
7月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
8月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
9月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
10月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
11月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
12月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
1月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
2月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
3月	つぐみ会健康体操	長田南小学校	つぐみ会	健康体操で交流
3月3日	林野火災訓練(火事防止広報活動)	浜藤山	実行委員会	参加
3月21日	あじさい園整備ボランティア	浜藤養老園	実行委員会	整備
5月17日	神戸祭り	浜藤養老園	地域実行委員会	運営参加・補助
6月1日	浜藤山グリーン作戦	浜藤山	神戸少年団	参加
9月1日	浜藤海岸清掃	浜藤海岸	地域ボランティア実行委員会	参加
11月1日	ふれあいフェスティバル	兵庫福祉センター	浜藤ロタリークラブ	運営補助・演説
12月23日	兵庫栄光工場の竹筒づくり	浜藤養老園	実行委員会	参加
2月28日	森の倶楽部作業打合せ	浜藤養老園	森の倶楽部員	参加
3月1日	高倉台児童館の会	高倉台児童館	高倉台児童館の会	運営参加
3月22日	浜藤菜博	浜藤養老園	実行委員会	参加

地域連携 地域学習1日レポート

平成20年 6月26日(木)	天候 晴れ	活動時間 11:00~14:00
参加事業名 保育ボランティア	主催団体 学校法人西須磨幼稚園	
主な地域学習の活動形態(ABCD) C	担当教員 TEL:	活動施設名 学校法人西須磨幼稚園
活動内容		
時間・場所	活動プログラム	
11:00~12:30 園庭 (年少クラス)	水遊び(家庭用サイズのプールを使って) ・私は水遊びをしない園児と一緒に砂あそびをした。 ・着替えの手助けなど。	
12:30~13:20 さくら館のお部屋	昼食 ・手洗い、準備、昼食、飲みかけ、片付けの補助 ・テーブルではなく、ビニールシートの上で昼食 ・食べた子からブロッコリーや折り紙などの自由遊び	
13:20~14:00 さくら館のお部屋	手あそび(1と5でたこやき食べ) 絵本(地獄のごんべい) 帰宅準備	
一日を通しての感想		
<p>今日は初めての年少のクラスに行かせていただいた。今まで2、3才児、年中にいかにしてもなかったことがあるが、両方とも全く違っていき驚いた。こりやクラスに比べることもしかり主張できるし、活動能力も高い。しかし、年中に比べると、園が一人を驚かすことができたり、うまく友達と遊べなかったりなど。発達の違いが見られてとても勉強になった。改めて、子どもの成長は早いと思った。</p> <p>今日、第一印象であったことは、子ども達に対する反応であった。私が気づかないようなアリアを見せたり、ちょっぴりを見つけて驚かしたりして、とても興味を示していた。私は今は若手になってしまったが、幼いころは私も虫が大好きだった。こうした子どもの好奇心を大切にすることは大事だと思う。だから、少し虫キライを直していきたいと思った。</p>		

平成20年 7月31日(木)	天候 晴れ	活動時間 13:00~17:00
参加事業名 保育ボランティア	主催団体 学校法人 西須磨幼稚園	
主な地域学習の活動形態(ABCD) C	担当教員 TEL:	活動施設名 学校法人 西須磨幼稚園
活動内容		
時間・場所	活動プログラム	
教室 13:00 14:00	教室内で自由に遊ぶ (ブロック、お絵かき、おり紙、ままごと、ぬいぐるみ、絵本) お片付け	
運動場 14:30	運動場で自由に遊ぶ(砂場、遊具、虫探し) ・帽子をかぶる ・虫よけスプレーをしてみよう	
教室 15:00	おやつ(ゼリー、クッキー) 食べ終わった子から自由に遊ぶ	
16:00	お片付け	
16:30	ビデオ鑑賞(アンパンマン)	
17:00	お迎えが来た子から帰る	
一日を通しての感想		
<p>今まで保育園でのボランティアはしたことがあったが、幼稚園でのボランティアは今回初めてであった。</p> <p>園児が入っているため、様々な年齢の子がいるクラスでの活動であった。その中でも4歳の園の子で少し知的障害のある子を見ておどろかされた。ボランティア初日で、障害のある子と接するのは初めてだったので、最初はとまどったが、子どもたちの方から近寄って来てくれて嬉しかった。見た目も、友達と遊んでいる様子も障害があるようには見えないが、突発的に泣いたり騒いだりすることがあり、先天的な後方を見てとても勉強になった。</p>		

地域連携 地域学習レポート ●教育学科2年生 ●参加回数(15回)

1 地域学習の活動で一番印象に残っていることを記述してください。	一番印象に残っていることは、子どもの成長です。5月から続けて同じプログラムに行っていたので、毎週行くたびに変化があり、それを発見したときは、すくなく感じました。2歳児の子は少しずつ、0歳児の子は行った回に大きくなっていき、驚きました。特に、夏休み前に首ももたない子が、夏休み明けに行くと、座ってハイハイしていたり、つかまり立ちをしようとしていたことが印象に残っています。毎回の活動はちろん先生の工夫がいろいろあり、親子の笑顔がとても素敵でした。
2 地域学習の活動から学んだこと(地域行事やイベントとの関わり、プログラムの実施、地域の人々との関わり等)から学んだこと)について記述してください。	「ほこやがた」では、主に赤ちゃんのおもちゃを遊ぶことが多かったけれど、今までなかった遊びがあったので、親子で遊びながら勉強になりました。また、お母さん方と交流する中で、地域の様子や、子どもたちの成長や生活などを知ることができました。そして、企業やボランティアなど、いろいろな支援をしていると、1時間の活動のために色々な機関が関わっているのだということがわかりました。子育てや子どもたちの成長や学習というのを目的としているため、地域の人も関わっているのだなと思いました。思えば、お母さん同士との交流や学習というのを目的としているので、地域の人も関わっているのだなと思いました。思えば、お母さん同士との交流や学習というのを目的としているので、地域の人も関わっているのだなと思いました。
3 将来この地域学習での経験をどう生かしますか?	地域学習でたくさんの人と関わることができました。また、1つのプログラムを準備するには、準備をしっかりして取り組んでいかなくてはならないということを学びました。将来、私は幼稚園教諭を目指したいと考えています。その時は、子どもとの関わり方、お母さんとの交流、地域の方々との連携など、学んだことをしっかりと生かしていきたいと考えています。実際の現場に出るときは、毎回の活動の反省点をふまえて、活動していきたいと思っています。
4 地域学習の活動と学業の両立の困難点、課題、また地域学習というシステムの課題について記述してください。また、改善点があれば記述してください。	部活を通して活動していたので、とてもやりやすかったと思います。同じ活動に毎週参加することで、見えてくるものもあって、ちょっとしたことで気づくことができました。もっともっと参加していければよかったかなと思います。
5 その他、地域学習について何かあれば自由に記述してください。	地域学習によって、ボランティアなどの活動に積極的に興味をもって活動していきたいという気持ちで、今までは参加していませんでした。私は小学生なので、この辺りの地域について知ることができ、とても良い経験ができたと思います。

地域学習レポート ●教育学科2年生 ●参加回数(15回)

1 地域学習の活動で一番印象に残っていることを記述してください。	西原野幼稚園で、たくさん子どもと関わることができたことです。年齢や、個人個人によって子どもができること、出来ないことがこんなに違うのか、ということに気づかされました。習字の他にも、子ども達と多く関わることができて、良い経験になりました。
2 地域学習の活動から学んだこと(地域行事やイベントとの関わり、プログラムの実施、地域の人々との関わり等)から学んだこと)について記述してください。	幼稚園の先生方から子ども達との関わりについて学びました。何かトラブルがあったときの対応、コミュニケーションのとり方、絵本の読みかきや絵本の読み聞かせまで、とても参考になりました。また、幼稚園だけではなく、地域の方は皆温かくて、ボランティアをする側の私達もやりやすかったです。私も地域の方々のように、誰とも優しく対応できるようになりたいと思います。
3 将来この地域学習での経験をどう生かしますか?	今まで、遠い存在だった幼稚園が、生の現場へ行くことで、一気に近くなりました。今までの活動を通して感じたこと、学んだことを忘れず、将来の夢につなげていきたいと思っています。
4 地域学習の活動と学業の両立の困難点、課題、また地域学習というシステムの課題について記述してください。また、改善点があれば記述してください。	私は幼稚園にボランティアに行っていたので、ポイントはとりやすかったのですが、そうでない友達もなかなか難しかったです。もう少し、紹介していただければいいと思います。
5 その他、地域学習について何かあれば自由に記述してください。	地域学習があることによって、多くのボランティアに参加することができました。おそろく、これを継続していければ、自分から「ボランティアをしよう」と思えるようになったと思います。良い経験ができました。ありがとうございました。

地域連携 地域学習レポート ●教育学科3年生 ●参加回数(15回)

1 地域学習の活動で一番印象に残っていることを記述してください。	保育所の子に折り紙やポンゴをもらったことです。子どもたちが一生懸命作ったものをくれるなんて、大切な宝物です。初めての顔と名前が一致しなかったらと比べて少しづつ信頼関係が築けていたのがとても嬉しかったです。子どもたちが「作ったものをあげたい人」と思ってくれたのなら、保育所のボランティアの活動は花丸だと思います。
2 地域学習の活動から学んだこと(地域行事やイベントとの関わり、プログラムの実施、地域の人々との関わり等)から学んだこと)について記述してください。	バイトなどお金をもらわずに、お手伝いするという経験ができてとても良かったです。お母さんだけでなく、たくさんの方の笑顔や感謝の気持ちが伝わったことへの感謝とよきなをもちました。また、地域のいろいろな行事を知ることができ、15個のポイントとは関係なくボランティアをしてみたいという好奇心が湧いてきました。
3 将来この地域学習での経験をどう生かしますか?	就職してきくなると、このボランティアで学んだ事を思い出したいと思っています。お金を得る為だけでなく、人々の笑顔の為にも頑張りたいという事を、これが正しい事ではないかという事を学ぶべきだと思います。
4 地域学習の活動と学業の両立の困難点、課題、また地域学習というシステムの課題について記述してください。また、改善点があれば記述してください。	特に1回のペースで行っていたので、学業との両立も困難なく平日でポイントを集めるのみに参加することが課題だと思います。私も3年生になって初めて知ったので、知らない学生をたくさんいると思います。
5 その他、地域学習について何かあれば自由に記述してください。	とてもいいシステムだと思います。ボランティアに行きたいと思っていたときに地域学習を知り、単位ももらえて、ボランティアに行けたことと、一石二鳥だなと思います。私の場合はボランティアに行きたいと思いましたが、地域学習を通じてボランティアの楽しさや喜びを知ることができたと思います。

地域学習レポート ●教育学科3年生 ●参加回数(15回)

1 地域学習の活動で一番印象に残っていることを記述してください。	自然学校が一番印象に残っています。5月6日も子どもと前回は機会はないので、本当に貴重な体験でした。
2 地域学習の活動から学んだこと(地域行事やイベントとの関わり、プログラムの実施、地域の人々との関わり等)から学んだこと)について記述してください。	イベントは、当日よりも、その前にかける時間が多く、プログラム自体の楽しさを知りました。地区単位は、保護者の方も見に来ていて、地区の子どもたちの対応をしてくれました。学校と保護者は、協力し合うことで、子どもを守っているのだなと感じました。
3 将来この地域学習での経験をどう生かしますか?	1人だけでなく、協力したいと思っています。地域のイベントは、たくさんの方で成り立っていることがわかり、私も地域の方になれるような活動をこれからしていきたいと思っています。
4 地域学習の活動と学業の両立の困難点、課題、また地域学習というシステムの課題について記述してください。また、改善点があれば記述してください。	自然学校は6日もあり、平日に学校を休むことは厳しかったです。
5 その他、地域学習について何かあれば自由に記述してください。	ボランティア活動をしているので、活動が単位に結びつくことが良いなと思います。